

事項六 南潯鐵道ニ関スル件

四三三 一月十一日 在九江河西領事ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

南潯鐵道問題ノ処理方法トシテ国有化又ハ萍

鄉迄延長ノ二案ニ付李盛鐸談話ノ件

第一号

李盛鐸上海ニ赴ク橋三郎ニ会見ノタメ南昌ヨリ来江本日本
官ヲ来訪其ノ語ル所ニ依レハ南潯鐵路ノ弁法トシテハ目下
二案

(一) 国有ニ帰スルコト

(二) 国有ニ帰スルコト能ハサレハ其ノ營養線トシテ萍鄉迄延
長スルコト

第一案ハ一般ノ希望スル所ナルヲ以テ前年ノ如ク委員ヲ北
京ニ派遣シ交通部ト商議スルコト第二案ハ国有ニ帰スルコ
ト能ハサレハ政府ヨリ約三百萬元ノ公債下付ヲ願ヒ之ヲ以
テ小株主ノ出資ヲ償還シテ彼等ノ掣肘ヲ免レ延長計画ヲ進
行セシムルコトヲ南昌ニ於テ各方面ト相談中ナリ尤モ萍鄉

機密往信第五号

(二月五日接受)

大正七年一月二十九日

在九江

領事 河西 信(印)

外務大臣法學博士子爵 本野一郎殿

東亜興業株式會社出張員成田鍊之助ハ利子取立ノ為メ旧臘
以来当地ニ出張中ノ処昨年末ニ至ル三期間ノ利子中第一期
分丈ハ既電ノ如ク客年十二月二十八日ニ於テ仕払ヒタルモ
殘二期分及ビ延滞利子ハ六ヶ月間延期スルコトニ決定之レ
カ契約打合セ旁成田鍊之助ハ過日南潯鐵路總理李盛鐸ニ會
見ノ為メ南昌ニ赴キ帰来南潯鐵路維持ニ関スル李盛鐸ノ談
話ナリトテ別紙ノ如ク小官ニ報告有之候間御参考迄右写供
貴覽候

右談話ノ要領ハ過日小官ト会見シタル当時語リタルモノト
同様ニシテ第一着トシテハ国有ニ帰スル運動ヲ試ミ若シ成
ラサレハ第二案タル南昌萍鄉間ノ延長計画ニ着手スルコト
ニ各方面ト商議中トノ事ナレトモ果シテ彼等ノ企圖ノ如ク
英國側力承諾スヘキヤ否甚タ疑問ニ属スヘシト存候一方程
允ノ計画ニ係ル南昌贛州間ノ鐵路敷設問題モ北京ニ於テハ

六 南潯鐵道ニ関スル件 四三四

線ハ英國トノ關係アルモ英國ノ現状ハ到底之ニ著手スルノ
余裕ナキヲ以テ支那ノ利益上本線ノ速成必要ナル理由ヲ說
明シ若シ將來英國ニ於テ之レカ回収ヲ欲スルトキハ之ニ応
スルヲ条件トシ支那自カラ之ヲ布設ストセハ敢テ故障モナ
カルヘシト信ス其ノ資本ハ自分ノ考案ニテハ橫浜正金銀行
又ハ橫浜正金銀行東亜興業會社合同出資ヲ相談スル積リナ
リ云々本官ハ江西督軍及省長ノ意見如何ト問ヒタルニ兩長
官トモ本案ニハ同意ニテ若シ中央政府ニテ前記三百萬元ノ
公債募集ヲ肯セサルトキハ省ノ公債ヲ起シ省有トスルモ可
ナリト謂ヒタリト

北京へ転電セリ

四三四 一月二十九日 在九江河西領事ヨリ
本野外務大臣宛

南潯鐵道ノ利子問題及同鐵道ノ維持ニ関シ李

盛鐸成田東亜興業出張員ニ談話ノ件

附屬書 右談話ノ概要

可ナリ運動モ進行致候様内聞致候得共別紙末項ニアル如ク
程允等カ過般江西督軍ニ請願書ヲ提出シ江西督軍ハ之レヲ
李盛鐸ニ諮問シタルニ李ハ自分ノ計画タル南萍線ヲ先決問
題トシテ主張シタルカ如キハ一面程允等ノ江西方面ニ於ケ
ル用意ノ周到ナラサルヲ窺知シ得ヘシト同時ニ彼等ノ計画
ハ李盛鐸トハ連絡ナキヲ以テ李ノ感情ヲ害シ居ルニハアラ
サルカ兎角商弁トシテノ本計画ハ南潯鐵路ノ既往ニ鑑ミ官
ハ勿論國家の感念ニ乏シキ利己主義ノ地方有志ハ必ス妨害
ヲ試ムルヲ常トシ今後幾多ノ波瀾ヲ重マルニアラサレハ容
易ニ成就セサルヘシト愚考致候

右併セテ御参考迄申進候

敬具

写送先 在支公使

(附屬書)

(写)

南潯鐵道ノ維持ニ関シ李總理ノ成田東亜
興業出張員ニ対スル談話ノ概要

本件ニ関スル李總理ノ計画ハ先般李氏ト会見後御報告申上
候通り第一案トシテ昨年既決ノ鐵道国有請願ノ再挙ニ関シ
先頃來股東連合會省議會商務總會等ニ対シ商議ヲ遂ケタル
ニ各方面トモ賛同ヲ得タレハ再び代表者ヲ上京セシメ昨年

四三九

署名済ノ願書ヲ提出スルコトニ内決シ居ルモ昨年ノ代表者ハ既ニ其任務ヲ終リタルモノナレハ新ニ代表ヲ選舉セヨトノ申出アルモ是レカ手續ニ時日ヲ要スルニ因リ近日中ニ督軍ヨリ昨年代表者中ヨリ二三名ヲ上京代表トシテ指定セラハル事ニナルヘシ先ツ此案ヨリ着手スル積リナリ第二案タル萍鄉ニ線路延長ノ計画ハ先ツ英國側ニ内議スル必要アレハ既ニ人ヲ以テ在北京滙豐銀行(即香上銀行)ニ内談セシメ其模様如何ニ依リテ運動ニ着手スルコトニ内決シ居レリ同銀行ハ英支組合ノ代表者ナレハ同行ヨリ英國公使ニ謀リ又本國英支組合ニモ話ヲ取次クヘク此内談ニ依リ英國側ノ意向ヲ知ルヲ得ヘク而シテ近日中ニハ内談ノ模様如何ヲ知ルヲ得ヘントノ事ニ有之候尚此等ノ計画進行シ東亞興業会社トモ相談ヲ要スル時機ニ至ラハ白岩取締役ノ出張ヲ煩ハシ幫助ヲ請フヘク曾テ橘兄ニモ話シ置キタルカ未タ其時機ニ達セスト申候

右概要御報告申上置候

右ノ外羅朗山氏ノ語ル処ニ拠レハ南贛線ニ関シ運動中ノ程允氏ヨリ督軍ニ宛テタル文書ヲ督軍ヨリ李氏ニ示シタルニ李氏ハ是ニ対シ先ツ自分ノ計画ナル南萍線ヲ先弁ト

南潯鐵道維持ノ弁法トシテノ程允等ノ南昌贛州間鐵道敷設計画並英國側トノ關係ニ関スル件

第五号

程允等ノ計画ニ係ル南昌贛州間ノ鐵道敷設ノ件ハ江西軍民長官ニ請願書ヲ提出シタルコトハ既報ノ如クナルガ程允ハ其後南昌ニ於テ之ガ運動中ノ処本件ニ関シ橘三郎ニ九江ニ於テ面会ヲ申込ミタルニ橘ハ目下北京ニ出張中ナルヲ以テ成田来江二月二十日会见シタルニ交通部ヨリノ指令トシテ督軍ヨリ同人ニ通達シタル処ニ拠レハ南潯鐵路ハ僅ニ二百余里ノ鐵道ニ対シ既ニ千数百万ノ巨額ヲ費シ而カモ收益ナキ鐵道ニ対シ此巨額ヲ籌備シテ國有ト為スハ暫ク詮議ニ及ヒ難シ請願ノ南昌贛州間ノ鐵道ニ関シテハ民國三年ニ英商大成公司代表部州南昌間ノ敷設ヲ請求シ英公使モ亦本線ハ英商ニ限り敷設計許可ヲ希望スル旨書面ヲ以テ要求シ来レリ故ニ交通部ハ技師陳西林ヲ派シ測量ヲ遂ゲタルコトアリ其後大成公司ノ出資敷設ノ件ハ成立セサリシト雖モ同年八月交通部ハ英公使ニ対シ中國政府ハ大成公司以外ノ実力アル英商ニシテ本部ノ認可ヲ与ヘ得ルモノニ商弁セシメトス

シ程氏ノ南贛線ハ後廻ハシトセラレタク申出タルカ督軍省長ニ於テ如何ニ取計フヘキヤ未タ決定セラレタルヲ聞カスト申候

四三五 二月十七日

在中國方派臨時代理公使ヨリ本野外務大臣宛(電報)

英國ノ南昌韶州間鐵道敷設要求說ニ付船津ヲ

シテ曹汝霖ニ確メシメタル件

第二〇五号

過般梁士詒ニ隨行シテ日本ニ赴キタル陳福頤(交通銀行員)ハ二月十五日橘ニ対シ最近葉恭綽ノ病氣ヲ見舞ヒタル処葉ハ英國ヨリ南昌韶州間鐵道敷設ノ新要求アリタルモ未タ許可セスト語リタル由ニ付二月十七日船津ヲシテ曹汝霖ニ就キ確メタル処曹ハ未タ斯ノ如キコトナシ或ハ外交部ニ向ツテ右ノ如キ要求提出セラレタルヤ知ラサルモ今日迄ノ処外交部ヨリ交通部ヘハ何等右ノ如キ通報ニ接セスト答ヘタル由ナリ内探中ナルモ不取敢

上海、九江ヘ電報セリ

四三六 二月二十一日

在九江河西領事ヨリ本野外務大臣宛(電報)

ト声明シ置キタリ南昌贛州間ハ即チ此線ノ範圍内ニ在リテ既ニ外交部ノ成案ト關係ヲ有スルヲ以テ是亦認許シ難シ南潯鐵路維持ノ弁法ニ付テハ昨年十一月江西軍民長官ヨリ該鐵路ノ外債緊迫破産ノ虞アルニ付總理李盛鐸ヲシテ速ニ歸省主事セシムル様電請シ来リタルニ依リ交通部ハ司法部ニ商議李ノ保釈ヲ許シ並該公司ニ対シ根本上ノ救済法ノ設定ヲ命シ一面部員ヲ派シテ調査セシメ外交ノ弁法上申ヲ待テ詮議ヲ行フ云々之ニヨリテ程ノ計画ハ一頓挫ヲ来シタルモ各方面ノ事情ヲ考察シテ運動ヲ繼續スル筈ニテ之ガ方法ニ関シ成田ヲ經テ東亞興業会社本店ト協議中ナリ在支公使ヘ電報セリ

四三七 二月二十五日

古市東亞興業会社社長ヨリ小幡政務局長宛

南潯鐵道延長線ニ関スル橘三郎來電提出ノ件

附屬書 二月二十三日在北京橘三郎ヨリ東亞興業会社宛來電寫

拜啓江西南潯鐵道延長線ノ件ニ関シ北京橘三郎ヨリ別紙寫ノ通り電信ニ接シ候間為御參考供貴覽候

大正七年二月二十五日

敬具

東亜興業株式会社

社長 古市公威(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書)

写

大正七年二月二十三日來電

北京

橋 三郎

東亜興業会社宛

交通部ノ意向大略左ノ通り

南昌韶州線ハ先年英吉利ヨリ要求アリタルモノニテ未ダ許可セザルモノ之ヲ第三者ニ許可スル事及交通部ガ第三者ノ資金ヲ以テ敷設スルニハ英吉利トノ交渉ヲ要ス寧ロ東亜公司ハ江西省ニテ他ノ線路ヲ敷設スル意ナキカ第三者ノ關係ナキ線ナレバ充分ノ便宜ヲ取計フトノコトニテ方仁元ノ意向ニテハ南昌福州ノ幹線ト建昌吉安間ノ支線ヲ取ルコトトシテ實際ノ工事ハ南昌ヨリ撫州ヲ經テ建昌迄ノ幹線工事ヲナシ其レヨリ建昌吉安間ノ支線工事ニ着手スルコトトシテ福州方面ハ時機ヲ待ツ事ニシテハ如何建昌吉安間ハ河(?)

大正七年三月一日

東亜興業株式会社

社長 古市公威(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(欄外註記)

「南潯ヲ南北ニ延長スル運動方東亜ヨリ橋ニ命令セルニ付必要且ツ妥当ト認メラル、援助ヲ与フル様芳沢代理公使へ訓令ノコト(小幡)」

(附屬書)

大正七年二月二十八日

東亜興業会社

北京 橋三郎宛

二十二日付文見タ南昌ヲ起点トシ福州及武昌ニ通スル線路ニ就テハ已ニ昨年八月葉恭綽ノ發意ニテ老千万円借款ノ提議ヲ直接日本人側ニ交渉シタルコトモアレハ此際南潯問題ニ関セス独立シテ交通部ト直接交渉差支ナキモノト思ハル故ニ貴殿ハ当分北京ニ留マリ先ツ交通部ニ対シ右二線ニ関スル契約ヲ結フコトニ勉メヨ成功報酬ノ約束ヲシテ宜シ若シ江西地方ヨリ請願セシムル順序ニ依ルコトヲ必要トスルナラハ其前貴殿ハ交通部側ト覚書若クハ仮契約ノ交換ヲ為

六 南潯鐵道ニ関スル件 四三九

ナキ為メ鐵道トシテノ利益却テ吉安南昌ヨリモ良好ナレバ右ニ付何分ノ御指図ヲ待ツ尚交通部ニテハ南潯鐵路国有ノ事ハ南潯鐵路当事者ヨリ地方長官及省(省ノ次一字不明)ノ同意ヲ以テ交通部ニ請願スレバ相当方法ニテ許可スル考ナリトノコト又東亜公司ト交通部トノ直接交渉ハ矢張南潯鐵路關係ヲ基礎トシテ江西省側ヨリ交通部ニ照会セシムルコトニシタ方順序ナリトノ事旁本日貴電程ノ要求モアリ拙者ハ一度南昌(九江カモ知レヌ)ニ行ク方宜シカト思フ又公使館ヨリ東亜公司ノ希望ヲ交通部ニ打合ハセ置ク方今後ノ為メ便利アリ明日芳沢船津ト交通部当事者ヲ招待スルコトニシタ

四三八 三月一日

古市東亜興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

南昌福州線及南昌武昌線ニ付出張員宛電報写
提出ノ件

附屬書

二月二十八日東亜興業会社發在北京橋三郎宛往電写

拜啓南昌福州線及南昌武昌線ノ件ニ関シ在北京橋三郎宛別紙写ノ通り架電致置候間御閱覽被成下度候 敬具

シ根本ヲ固メタル上ニテ江西ニ行クヘシ尚ホ武昌南昌線ニ就キテハ英支間ノ過去ニ於ケル關係アルモノ故特ニ秘密ヲ要ス程允ノ方ハ別問題トシテ不即不離ノ間ニ置キ先ツ武昌福州線ヲ纏メタシ○李ト程トノ合同ヲ勧誘スルコトハ時機尚ホ早シ○真金号二階全部貴殿ノ名義ニテ借入レ当分東亜事務所トシテ使用セヨ

四三九 三月二日

本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

南昌福州線及南昌武昌線ニ関シ橋援助方ヲ指

示ノ件

第一二四号

本大臣宛在九江領事發電第五号ニ関シ

二月二十三日在貴地橋三郎ヨリ方仁元ノ意見ニ基キ交通部側ニ故障アル從來ノ計画線ニ代ユルニ南昌福州間ノ幹線ト建昌吉安間ノ支線トヲ以テセムコトニ付東亜本店ニ稟申ノ次第アリタルカ二月二十八日東亜ヨリ橋ニ対シ此際全然南潯鐵道問題トハ離レ南昌ヲ起点トシ福州及武昌ニ通スル二線ニ付直接交通部ニ交渉ヲ試ムル様電訓シタル趣ニ付委細橋ヨリ御聞取ノ上貴官ニ於テモ必要且妥当ノ援助ヲ与ヘラ

ルル様致度シ

右為参考九江ニ転電アリ度シ

四四〇 三月六日 古市東亞興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

南潯鐵道延長線ニ関シ交通部ヨリ程允等へ交

付ノ指令書写送付ノ件

附屬書 右指令書写

(三月七日接受)

拜啓昨年十二月二十七日附敝社書面ヲ以テ供御覽候南潯鐵道延長線ノ件ニ関シ程允、鄒維良、陳隆恪三人ノ名義ヲ以テ總統府及國務院ニ提出致候請願書ニ對シ其後交通部ヨリ程允等へ交附セラレタル指令写別紙ノ通り接手致候ニ付為御参考供覽候

敬具

大正七年三月六日

東亞興業株式会社

社長 古市公威(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

註 日本外交文書大正六年第二冊四九〇文書

(附屬書)

指令全文写

江西省商会幹事等ヨリ南贛韶鐵道維持法ニ付キ陳請シ並ニ民国ノ初年本部ヨリ派遣シタル陳西林ノ見積タル原案ニ從フテ保証金ヲ調達シ先ツ南昌ヨリ贛県ニ至ルマテヲ開業スル見込ニテ本部ヲシテ經費ヲ驗査シ許可セシメンコトヲ請フ等ノ上申書ニ付テ國務院ヨリ本部ニ処分ヲ命セラレタリ按スルニ民設南潯鐵道ハ僅ニ貳百余万元竣成シ資金ヲ費ス已ニ一千数百万ニ達セシコトハ誠ニ上申書ニ称スルカ如シ此本部經費欠乏ノ際ニ当テ如何ニシテ此巨額ノ資金ヲ調達シ以テ無益ノ鐵道ヲ回收センヤ国有ニ歸スル請願ノ趣ハ差シ当リ詮議致シ難シ又資金ヲ集メテ先ツ南昌ヨリ贛県マテ敷設スルノ請願ニ付テハ民国三年間本部ニハ英商大成公司代表ヨリ資金ヲ立換ヘテ広州南昌間鐵道ヲ建築シタシトノ請求アリ並ニ英國公使ヨリ此線路ハ英商ニ限りテ建築セシメラルコトヲ願フトノ書翰ニ接セリ故ニ本部ハ建築技師陳西林ヲ派シテ測量見積ヲ行ハシメタルコトアリ嗣テ大成公司カ資金立換敷設ノ件ハ成立セサリシト雖モ其年八月間本部ハ英國公使ニ通牒シ中国政府ハ其他ノ確實ナル英商公司ニシテ本部ノ認可ヲ經タルモノニ最先ニ此事業ヲ請負ハ

南潯鐵道延長線ニ関シ交通部ヨリ程允等宛指令全文写

准國務院外交部核弁商董等陳請維持南贛韶鐵路弁法並遵照民國初年部派陳西林勘估原案籌集保証金擬先開弁南昌至贛県請飭部驗費立案等情呈一件本部查商弁南潯一路成路僅貳百余里廉款已達千數百萬誠如來呈所稱當此部款奇絀突從籌此巨金以收無益之路請歸國有一層自屬暫難議及所請集資先修南昌至贛県等情查民國三年間本部拋英商大成公司代表請求墊款修築廣州南昌鐵路並准英使函稱願將此綫限由英商建築故本部有派委工程司陳西林勘估之舉嗣大成公司墊款修築之案雖無成議而是年八月間本部曾經函致英商使聲明中国政府擬俟其他股英商公司能經本部認可者承弁此事等因在案南昌至贛一段係在此綫範圍之内既与外交成案有関亦屬礙難照弁自應毋庸置議至維持潯路弁法上年十一月間本部據准江西軍民長官來電以該路外債緊迫破產堪虞請飭總理李盛鐸迅速回贛主持業經本部函商司法部准予保釈並令該公司速從根本上設法救清一面派員前往調查俟該公司籌定弁法呈部即行核弁除函覆國務院外仰即知照此批

中華民國七年一月十二日

(右和訳文)

シムル見込ナルコトヲ声明シ置キタリ南昌ヨリ贛ニ至ル一區ハ此線路ノ範圍内ニ在リ既ニ外交上ノ成案ニ関係アリ亦タ実行ニ差支アリ自ラ詮議ニ及ヒ難シ南潯鐵道維持法ニ至テハ昨年十一月間本部ハ江西督軍省長ヨリ該鐵道ノ外債緊迫シ破産ノ虞アルニ付キ總理李盛鐸ニ命シ至急江西ニ歸リ主管セシメラレンコトヲ請フトノ來電ニ接シタレハ已ニ本部ヨリ司法部ニ通牒シテ保釈ヲ許スコトヲ請求シ並ニ該公司ニ速ニ根本的救済方法ヲ設クルコトヲ命シ一面ニハ吏員ヲ派遣シテ調査セシメ該公司ノ処分法ヲ定メ本部ニ上申スルヲ俟テ直チニ処分ヲ行フヘシ依テ國務院ニ回答スルノ外尚ホ此旨承知アラシコトヲ望ム此段指令ス

民國七年一月十二日

四四一 三月九日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

南潯鐵道延長線ニ付葉交通次長方仁元ニ談話

ノ件

第三二五号

貴電第一二四号ニ関シ

橘ヨリ方仁元ヲ介シテ葉交通次長ニ一応交渉ヲ試ミタル所

六 南潯鐵道ニ関スル件 四四二

葉ハ南昌福州線ニ関シテハ目下交通部ニ於テ布設ノ考ナキモ前貸金入手ノ必要モアルニ付時宜ニ依リテハ右鐵道布設(建昌吉安間ノ支線ヲ含ム)ノ相談ニ応シテモ差支ナシ但シ武昌線ハ英國ヨリ反對シ来ル虞アルニ付当分見合スル外ナカルヘシト答ヘタル由尚方ヨリ前貸金額並借款契約ノ条件等ヲ問ヒタルニ借款ノ総金額未定ナル今日直チニ前貸金額ヲ言明スルコト困難ナルモ約日本金五百万円位迄ハ前貸差支ナカルヘシ又借款契約条項ハ大体浦信鐵道ノ例ニ準シ差支ナカルヘシト思料スル旨答ヘ置キタル由何レニシテモ本件ヲ進捗セシムルニハ此際是非トモ多少ノ運動費必要ナル旨方ヨリ申出タルニ付橋ハ差当リ若干ノ金額ヲ新華貯蓄銀行(方ハ其總理ニテ葉次長始メ交通系ト密接ノ關係アル模様ナリ)ヘ預入レ必要ニ応シ隨時使用出来ル様手配方東亜本店ヘ申送ルヘキ旨答ルタヘ趣ナリ

四四二 三月十二日 古市東亜興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

南昌福州線ニ関スル橋及東亜興業本社間往復

電報提出ノ件

附屬書一 三月八日在北京橋三郎ヨリ東亜興業会

日方仁元ヲシテ金五百万円迄東京渡シナレバ一回ニ北京渡シナレバ数回ニ渡、契約条項ハ浦信鐵路条項ニ準拠スルト返事セシメ来ル三月十二日更ニ會議スル管就テハ愈運動費必要トナレリ未タ先方ヨリ明ニ幾何出セトハ云ハサレドモ方仁元ヨリ多少ノ現金用意セヨトノ注意アリ此際銀三、四万弗ヲ方仁元ノ管理スル銀行ニ預ケ置キ拙者ニ相談ノ上隨時支出サスルコトニセバ先方ヨリノ信頼ヲ堅クスルニ利益アリ詮議ノ上急キ御手配願ム 以上

(附屬書二)

別紙第二号写

大正七年三月九日發電

東亜興業会社

北京

橋 三郎宛

電見タ御尽力ニ依リ目的進行ノ端緒ヲ得タルヲ謝ス但シ昨年八月葉恭綽ノ提案ニハ福建ヨリ江西省ヲ經テ湖北省ニ至ル幹線及支線ヲ敷設スルコト右線路調査ノ結果有望ナラサルトキハ別ニ同一距離ノ鐵道ヲ選定スルコトトナリ居レリ因テ今回モ南昌武昌間ヲ加ヘ前回同様ノ運ヒニナル様尽力

六 南潯鐵道ニ関スル件 四四三

四四六

社宛電報写

二 三月九日東亜興業会社宛在北京橋三郎宛

電報写

三 三月十一日東亜興業会社宛在北京橋三郎

宛電報写

拜啓南昌福州線ノ件ニ関シ在北京橋三郎ヨリ別紙写第一号ノ通り來電ニ接シ候之ニ對シ別紙写第二号及第三号ノ通り架電致候間御含ミ置願上度同封供御覽候 敬具

大正七年三月十二日

東亜興業株式会社

社長 古市公威(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書一)

別紙第一号写

大正七年三月八日來電

北京 橋 三郎

東亜興業会社宛

昨日(三月七日)方仁元ハ拙者ニ代リ葉恭綽ト會議ノ結果南昌福州線許可ヲ得ヘキ見込付イタ但葉恭綽ハ前渡シ金ヲ条件トス其金額交附期及地名条項ハ如何トノ問合ニ對シ本

セヨ其他ハ十一日重役会ニ於テ決定ノ上電信スル 以上

(附屬書三)

別紙第三号写

大正七年三月十一日發電

東亜興業会社

北京

橋 三郎宛

今日重役会開カス武昌線ノコト尽力頼ム其後ノ模様報告アレ 以上

四四三 三月十六日 本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

南昌武昌線敷設契約交渉ニ関シ東亜興業本社

ヨリ橋宛電訓ノ趣旨通報ノ件

第一六九号

貴電第三二五号ニ関シ

三月十四日東亜興業ヨリ貴地橋ニ對シ南昌武昌線ハ我方ニテ明治三十八年以來關係ヲ有スル次第ニ付英國側ニ顧慮スルコトナク交通部ト交渉ヲ進メ契約調印ノ上ハ仮令英國側ヨリ抗議アルトモ之ヲ拒絶スルニ十分ノ理由アレハ其ノ含

四四七

ニテ銳意尽力スヘキ旨電訓シタリ尚委細ハ橋ヨリ御聴取アリ度シ御含迄

右参考ノ為九江ニ転電アリ度シ

四四四 三月二十九日 古市東亜興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

南潯鐵道延長線ニ付東亜興業本社ヨリ橋宛訓電及其返電写提出ノ件

附屬書一 三月二十五日東亜興業会社発在北京橋

三郎宛電報

右鐵道ニ関シ指令ノ件

二 三月二十七日在北京橋三郎發東亜興業

会社宛電報

右指令ニ対シ返電ノ件

(三月二十九日接受)

拝啓南潯鐵道延長線ノ件ニ付去ル二十五日北京橋三郎宛別紙甲ノ通り架電致候処之ニ対シ昨二十八日別紙乙ノ通り來電ニ接シ候間不取敢奉供貴覽候

敬具

大正七年三月二十九日

東亜興業株式会社

社長 古市公威 (印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書一)

別紙甲

大正七年三月二十五日發電

東亜興業会社

北京

橋 三郎宛

十四日付手紙見タ武昌福州ノ幹線ヲ請求スルモ實際武昌線ハ南潯線ノ建昌又ハ德安ヨリ分岐スルモノナレハ九江南昌福州ヲ幹線トシ武昌線及福州線ノ建昌ヨリ吉安及広信ニ至ル線トヲ三枝線トシテ請求シテモ宜シ武昌迄延長スルハ日本政府ノ最重要視スル所ナリ

参万弗送ル貴殿ノ名ニテ新華銀行ニ預ケ入レヨ支出ハ当方ノ手紙見ル迄見合セヨ秘密

(附屬書二)

別紙乙

大正七年三月二十七日發

二十八日着

北京

橋 三郎

東亜興業会社宛

二十五日貴電見タ僕二十四日梁士詒迎ノ為天津ニ行キ三日滞在武昌線其他当方ノ希望詳シク述べ置イタ

真金代理同氏モ大賛成御含ミ迄

四四五 四月三日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛 (電報)

九江南昌線ノ国有及南昌福州線ノ敷設ノ為ノ

四千万円借款契約ニ関シ葉交通次長ヨリ橋ニ

内談ノ件

第四七一号

四月三日橋ノ申出ニ依レバ江西鐵道ノ件モ新華銀行ニ運動費預入后稍順調ニ進行シ九江南昌間既成鐵道ヲ国有トスルコトトシ其買収費ト南昌福州間ノ敷設費トヲ合セ借款金額ヲ金四千万円トシ内五百万円ヲ前渡シ契約ハ浦信寧湘鐵道ヲ標準トシテ起案提出スベキ旨葉交通次長ヨリ内談アリタルニ付從來交通部ト關係深キ武昌電燈公司林庚侯ヲ喚ビ寄セ契約起草ニ著手スルト同時ニ契約条項ニ関シ東亜本社ノ指図ヲ乞ヒタル趣ナリ尚武昌線ハ目下橋ニ於テ引続キ交渉中ナルモ支那側ニテハ此際一公司ニ長距離ノ鐵道ヲ日本側

ニ許可スル時ハ直ニ世間ヲシテ日支交渉当時日本要求ノ南支鐵道ニ聯想セシメ種々ノ物議ヲ惹起セムコトヲ恐レ躊躇シ居ル模様ナル由ニ付今回ハ不取敢南福間ニ止メ追テ時機ヲ觀テ漸次武昌迄拡張スルノ方針ニ出ヅル方諸般ノ關係ニ顧ミ得策ナルヤニ思考セラル

右御参考迄ニ申添フ

四四六 四月八日 本野外務大臣ヨリ
勝田大藏大臣宛

南潯鐵道国有及南昌福州線敷設ノ為ノ四千万

円借款契約取極異存無キヤ問合ノ件

拝啓陳者南潯鐵道延長問題ニ付テハ客年中首相並閣下ト御打合セノ上決定致シタル次第モ有之且其後当省及東亜興業会社ヨリモ屢貴聞ニ達シタル義有之候処別紙^(連)在支林公使來電ニヨレハ支那政府ニ於テ南潯鐵道ヲ国有トシ且南昌福州線ヲ敷設スルコトトシ右南潯鐵道買収費及南昌福州線敷設費ニ充ツル為四千万円ノ借款ヲ起シ内五百万円ヲ前渡トシ契約ハ浦信及寧湘兩鐵道ヲ標準トシテ取極メ且九江武昌線ハ追テ他日ノ問題ニ讓ルコトトセハ此際本件目的達成ノ見込有之ヤニ認メラレ候処本件ハ我多年ノ宿望ニモ有之旁此

六 南潯鐵道ニ関スル件 四四七 四四八

際大体前記ノ条件ニヨリ一先本件交渉ヲ取纏メシムルコト
得策ト思考致サレ候就テハ大体右様取極ノ上五百万円前渡
方御異存無之候哉承知致度此段申進旁得貴意候 敬具

註 別紙前掲ニ付省略

四四七 四月十八日 古市東亜興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

南潯鐵道延長線ニ関スル借款契約ノ条件ニ付

東亜興業本社ト橋間往復電報提出ノ件

拜啓南潯鐵道延長線關係ノ件ニ付一昨十六日北京橋三郎宛
別紙写甲ノ通り架電致候ニ対シ別紙写乙ノ通り電信ニ接シ
候間不取敢供貴覽候 敬具

大正七年四月十八日

東亜興業株式会社

社長 古市公威(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(別紙)

甲写

大正七年四月十六日

極大体異存無キ旨並九江大冶線及建昌吉安線

ノ借款權獲得ヲ希望ノ旨回答ノ件

官房秘乙第九三三号

(四月二十三日接受)

四月八日附ヲ以テ御照会ノ南潯鐵道延長問題ニ関スル件了
承御申越ノ趣大体異存無之但シ九江福州線ハ武昌ニ連結ス
ルヲ以テ其効果ヲ著大ナラシムルモノト認メ候ニ付九江武
昌線ニシテ他国トノ關係上商議ヲ進ムルコト困難ナリトセ
バ九江線ノ一部ヨリ大冶ニ至ル鉅山用鐵道敷設ノ名義ヲ以
テ其實績ヲ収ムルコト致度又建昌吉安線ニ関シテハ別段
故障ナキモノト認メ候ニ付此際可成ハ右二線ノ借款權ヲ得
ル様適宜御取計ヲ得度希望致候此段及御回答候也

追而南潯鐵道国有トナリタル曉ニハ東亜興業株式会社ニ
対スル從來ノ債務履行方勵行致ス様此際支那当局ニ御注
意相成様致度併セテ申進候

大正七年四月二十二日

大藏大臣 勝田主計(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

(欄外註記)

「事態變更セルニ付何等措置セサルコトセリ(大正七年
六 南潯鐵道ニ関スル件 四四九 四五〇

四五〇

東亜興業会社

北京

橋三郎宛

契約草案大体出来タラ利子、期限、手取額等ノ要点ノミ先
ツ電セヨ

乙写

大正七年四月十七日

北京

橋三郎

東亜興業会社宛

電見タ、先方ノ主張ハ寧湘鐵路同様利息五分、手取九十六
ヲ固守スルモ拙者ハ利息六分、手取九十五トシテ、残り五
分ノ内ヨリ一分五厘ハ当局者へ戻シ当方ハ三分五厘ニテ満
足スル様東亜公司ニ勸ムベシト交渉シタ期限ハ四十五ケ年
ニテ、十五ケ年据置キ、前貸金ノ利息ハ六分五厘位ト御承
知アリタシ

四四八 四月二十二日

勝田大藏次官ヨリ
本野外務次官宛

南潯鐵道延長線ニ関スル四千万円借款契約取

六月二十三日

四四九 四月二十二日

市来大藏次官ヨリ
幣原外務次官宛

南潯鐵道延長線借款ニ付中国政府ノ意思突留

方並五百万円前渡金ニ関スル件

官房秘乙第九三三号

(四月二十三日接受)

大正七年四月二十二日

大藏次官 市来乙彦(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

南潯鐵道延長線ニ関シ別途当省大臣ヨリ貴省大臣へ御回答
致候処從來支那ノ情況ニ鑑ミ交通次長ノ言明カ果シテ支那
政府ノ意思ナリヤ否ヤ甚タ不明瞭ニシテ懸念ニ被存候間右
御突留置被下度尚又五百万円前渡金ニ関シテハ東亜興業会
社ニ於テ相当調達ノ考モ可有之隨而此場合直チニ政府ヨリ
融通スルコトヲ決定申進シタル次第ニハ無之右御領承相成
置度候也

四五〇 五月四日

古市東亜興業社長ヨリ
小幡政務局長宛

九江福州鐵路借款契約案提出ノ件

(附屬書) 右契約案

(五月六日接受)

拜啓九江福州鐵路借款契約案別冊ノ通り北京橋三郎ヨリ送付ニ接シ候ニ付奉供貴覽候

敬具

大正七年五月四日

東亜興業株式会社

社長 古市公威(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書)

九江福州鐵路借款契約

此契約ハ民国七年 月 日即大正七年 月 日北京ニ於テ締結ス此契約当事者ハ一ハ中国政府ノ交通部総長ト他ハ日本東亜興業株式会社(以下単ニ会社ト称ス)トニテ茲ニ議定セル条項ハ左ノ如シ

第一条 中国政府ハ会社カ 分利附借款日金四千万円ヲ引受ケ其債券ヲ発行スル事ヲ許可ス此借款期日ハ債券売出ノ日ト定メ名ケテ中国政府 分利附潯福鐵路借款ト称ス此借款金額カ全路築造ニ不足ヲ生スル場合ハ更ニ会社ヨリ統借ヲ為スモノトス

第二条 此借款ハ

一、中国政府カ已成商弁南潯鐵路ノ全路工程及其財産全部ヲ買収スルノ費用トナス事

二、中国政府カ新ニ南昌ヨリ福州及馬尾ニ至ル線路ノ敷設ニ供スル費用トナス事

其他細目ノ費途ハ別ニ第三条ヲ以テ規定ス

右第一項已成南潯鐵路ト第二項新線トノ聯絡ヲ完全ニシ同一借款契約ノ下ニ置クヘキモノトス

本線ノ測量設計ハ交通部ヨリ核定ス

第三条 本借款資金ハ専ラ鐵路ノ敷設土地車輛及一切ノ必要物件ノ購入並ニ列車運轉經營及線路敷設期日ニ於テ支払フヘキ借款ノ利息ニ充当スヘキモノトス

右敷設工事ハ實際起工ノ日ヨリ起算シ約四個年間に竣工スベシ其起工期日ハ本契約調印後六ヶ月以上延期スル事ヲ得ズ

会社ハ本契約調印ト同時ニ日金五百万円ヲ準備シ交通部ノ希望ニ由リ或ハ東京ニ於テ或ハ中国ニ於テ払渡スベキモノトス此前渡金並ニ利息ハ何レモ第一期債券発売中ヨリ控除サルベシ而テ其利率ハ年七分ヲ超過スルヲ得ズ

第四条 本借款利率ハ額面ノ年 分トシ半年毎ニ支払フベ

尚借款目論見書規定ノ如ク普通償還ノ抽籤ヲ行フ際ニ右臨時償還ノ抽籤ヲモ行フモノトス

第七条 銀行ハ会社ノ委任ヲ受ケテ借款取扱ノ銀行トナリタルニ就キテハ第四条第五條所載ノ元利金償還ハ此契約付表ノ金額ニ照シ期日十四日前ニ交通部ヨリ上海ニ於テ上海銀又ハ新國貨ヲ以テ(此國貨ハ完全ニ通貨タルヘキモノ)東京ニ於テ償還スルニ足ルヘキ金額ヲ該銀行ヘ交付スヘキモノトス其為替率ハ該銀行ト当日取極ムヘキ事只鐵路側ノ希望ニ由リ或ハ六ヶ月内ニ於テハ何時タルニ論ナク償還スヘキ元利金ノ為替率ヲ取極ムル事ヲ得借款元利金償還ノ為メ 銀行ハ千分ノ二半ノ手数料ヲ受クヘキモノトス

第八条 中国政府ハ此借款元利金ヲ皆済スル事ヲ承認ス若シ鐵路收入金或ハ借款收入金ニテ元利皆済ノ金額ニ足ラサルトキハ政府ハ期限通りニ会社ニ向ヒ別途方法ヲ以テ皆済ヲ為スヘキモノトス

第九条 本借款ハ本鐵路ヲ以テ抵当トス即本鐵路ノ所有財産材料車輛諸機械家屋已購及後購ノ産業及鐵路完成後ノ一切ノ收入ヲ以テ第一抵当權ヲ設定ス

キモノトス此利息ハ借款債券発行ノ日ヨリ起算シ鐵路敷設期間内ハ借款資金又ハ別途金ヲ以テ之ヲ支払ヒ或ハ中国政府ノ適當ト認ムル別途收入金ヲ以テ之ヲ支払フ

右ハ借款債券発行ノ日ヨリ起算シ半年毎ニ陽曆ニ遵ヒ此契約附表ノ金額ニ照シテ十四日前ニ支払フベキモノトス

第五条 本借款ノ期限ヲ四拾五年トス第六條ノ場合ヲ除キ借款締結ノ日ヨリ起算シ十五年目ヨリ元金ヲ償還スル事ト定メ毎年償還スベキ金額ハ該鐵路ノ收入金又ハ中国政府ノ適當ト認ムル別途收入金ヲ以テ支払フモノトス

右ハ債券発行ノ日ヨリ起算シ半年毎ニ陽曆ニ遵ヒ此契約附表ノ金額ニ照シテ其十四日前ニ之ヲ支払フモノトス

第六条 本借款債券発行ノ日ヨリ十五年目後ニ至レハ何時タリトモ中国政府ハ借款全額ヲ又契約附表所載ノ通り未タ期限ニ達セサル金額若干ヲ償還スル事ヲ得ルモノトス此場合ニ於テハ二十五日目迄ハ額面百分ノ二半ノ打歩即百円ニツキ百零貳円半ノ割ヲ以テ償還スヘキモノトス而テ第二十五年目後ハ打歩要セスシテ償還スル事ヲ得ベシ但シ右償還ノ場合ニハ中国政府ハ必ス六個月以前ニ書面ヲ以テ会社ニ償還ノ旨ヲ通知スヘキモノトス

本条項ニ規定スル抵当權ノ意義及効力ハ凡テ日本慣行ノモノト同一ニ解釈シ之カ取扱ヲ為スモノトス

第十条 会社ハ本契約ニ依リ本借款ノ総額ニ対シ会社カ便宜ト思意スル債券ヲ応募人ニ発行スルノ權利ヲ有ス債券ノ形式ハ交通部又ハ東京駐劄中国公使ト商議ノ上会社之ヲ決定ス

債券ハ支那語及日本語ヲ以テ印刷又ハ鐫刻シ交通總長ノ署名及其部印ヲ印刷シ一々親筆押捺ノ煩ヲ省略ス但シ東京駐劄中国公使ハ該債券ノ発行ニ先チ債券発行及売出カ中国政府ニ於テ適法ニ允許セラレ又中国政府ヲ羈束スルモノナル事ヲ証拠トシテ各債券面ニ其署名ノ模字ヲ載セ且ツ之ニ押印セサルヘカラズ本会社ノ代表者モ亦本債券發行ノ代理人トシテ債券面ニ副書スルモノトス

發行サレタル本債券カ紛失盜失又ハ滅失シタルトキハ会社ハ直ニ其事由ヲ交通部又ハ東京駐劄中国公使ニ通告シ其許可ヲ得テ右債券ノ支払カ中止サレタル事ヲ新聞紙ニ広告シ且關係国ノ法律慣習ニ從ヒ適當又ハ必要ト思ハル所ノ他ノ手段ヲ取ル事ヲ得而シテ該債券カ若シ会社ノ予定期間内ニ回収出来サルトキハ交通部又ハ東京駐劄公

鐵路勘定ノ貸方ニ払込マルヘシ債券手取金ノ本勘定貸方ヘノ払込ハ分割払込トナシ其払込ハ本債券応募者ニ許可シタル条件ニ遵拠スル日ニ於テ之ヲ為スモノトス

東京ニ於テ保管スル右勘定ノ貸方殘額ニ対シテハ年百分ノ三ノ割ヲ以テ利息ヲ付ス又中国ニ移送シタル部分ハ貸方殘額ニ対シテハ同銀行カ平常スル勘定ニ対シ付スル所ノ利息ト同一ノ割合ヲ以テ利息ヲ付スヘキモノトス

銀行ハ敷設期間内ニ於ケル利息支払並ニ其手数料等必要ナル金額ヲ控除シ純手取金ハ其利息ト共ニ交通部ノ命令ノ下ニ之ヲ保管ス交通部ガ貳拾万円ヲ超過スル金額ノ支払ヲ許可スル場合ハ右金額ヲ必要トスル日ヨリ拾日前ニ 銀行ニ予告ヲ發スベシ

債券資金ノ引出請求ハ鐵路敷設事業ノ進捗上適當ナル金額ナル事ヲ要シ局長又ハ其代表者及會計長ノ署名シタル銀行宛支払命令ニ其支払ヲ為スヘキ事業ノ性質ト事業トヲ明示シタル証明書ヲ添付スベシ毎月ノ敷設費予算額ニ該当スル資金ハ局長ノ請求アリタルトキハ上海ニ廻送セラルベシ廻送金ハ必ス 銀行ヲ經由スヘキモノトス而テ此廻送金ハ鐵路敷設ノ目的ノ為メニ必要ナルニ至

使ハ同金額ノ債券副本ヲ調製シ捺印ノ上之ヲ会社ニ交付スベシ之ニ關スル費用ハ会社ノ負担トス

第十一条 本借款ニ關スル各債券利札利息支払及元金償還ニ付テハ本債券ノ有効期間内ニ於テ各種課稅ヲ免除セララルモノトス

第十二条 目論見書ノ為メニ必要ナル一切ノ細目及本債券ノ元利支払ニ關スル細目ニシテ本契約書中ニ明瞭ノ規定ナキモノハ会社ニ於テ東京駐劄中国公使ト商議ノ上之ヲ取極ムベシ会社ハ本契約ニ依リ其代理人ナル 銀行ヲ經由シテ本契約調印後可成速ニ第十三条規定ニ遵ヒ本債券ノ目論見ヲ發行スルノ權利ヲ有ス又中国政府ハ共同行為ヲ必要トスル事件ニ關シテハ会社ト協力シ且ツ本債券目論見書ニ署名スヘキコトヲ東京駐劄中国公使ニ訓令スヘキモノトス

第十三条 本債券ハ本契約調印後成ルヘク速ニ日金四千万円ノ全額ヲ發行売出ヲ為スベシ而シテ本借款ノ中国政府ノ手取額ハ会社ノ得ヘキ百分ノ 売出手數ヲ控除シタルモノトス

第十四条 本債券ノ手取金總數ハ在東京ノ 銀行滯福

ル迄ハ 銀行ニ預入レラルベシ

鐵路會計ハ予メ会社ノ承諾ヲ經テ交通部ノ選任スヘキ適當ナル日本人會計長ノ指導ヲ受ケ支那語日本語ヲ以テ新式ノ方法ニ依リ記載スベシ會計長ニ關スル聘用契約ノ条件ハ交通部之ヲ決定ス會計課ニ必要ナル人員ノ目錄ハ會計長ヨリ調製シテ之ヲ交通部ニ交付シ交通部ヨリ決定任命スルモノトス

會計長ハ本債券有効期間中ニ於テハ鐵路資金ノ各収支ニ關シ交通部又ハ局長又ハ其代表者ノ下ニ在リテ全責任ヲ有シ又鐵路資金支払ニ關スル各書類ニ局長ト共ニ署名スヘキモノトス

交通部ハ毎年其年度末ニ於テ本鐵路ノ營業費ト運輸收入トヲ示スヘキ報告書ヲ支那語及日本語ヲ以テ公刊シ公衆ノ請求ニ応ジ其閲覧ニ供スヘキモノトス

第十五条 鐵路敷設期間内ニ於テ本債券ノ純手取金額ト其利殖金ヲ以テ債券利息ヲ支払ヒタル上尚鐵路敷設及設備ヲ完成スルニ不足ヲ生スル場合ニ敷設工事ノ繼續ヲ中止セサル為メニ別途資金ノ準備ナキ時ハ其必要ナル不足額タケノ債券ヲ發行スル事但シ此補充債券ノ利息及其他ノ

条件ハ本契約ト同一ナルベシ

本線路竣工ノ後鐵路勘定ノ貸方ニ使途ヲ有セサル殘額ヲ生スルトキハ此殘額ハ中国政府カ本契約ニ依リ支払ノ責任ヲ有スル借款ニ対スル準備金トシテ第十七条記載スル利息支払準備金ノ貸方ニ移換スルモノトス

第十六条 鐵路ノ敷設監督ノ權ハ全部中国政府ニ屬スルモノトス故ニ交通部ハ鐵路局長ヲ任命シ本線路ニ近接シタル地ニ住セシメ本契約ノ条件ニ從ヒ中国政府ノ名ヲ以テ行動スルノ全權ヲ有スルモノトス

技師長ハ交通部ヨリ予メ会社ト協議シ適任者タル日本人技師ヨリ選任シ別ニ聘用契約ヲ訂立ス

技師長ハ局長又ハ其代表者ノ命令ヲ受クヘキモノトス
技師長ハ本線路ノ設計ニ任シ並ニ見積書ヲ作成シテ工事ノ実行ヲ指導シ且ツ局長又ハ其代表者ノ許可ヲ得テ鐵路開通ニ必要ナル各材料ト設備品トヲ注文スルヲ以テ任務トス

技師長ハ必要ナル支那人技師並ニ日本人技師ノ職員録ヲ作り局長ニ交付シ局長ヨリ任命ノ上技師長ノ下ニ其割當ル事務ヲ取ラシムルモノトス

雇支那人技手及日本人技手ノ任命其職務ノ決定及罷免ニ付テハ局長又ハ其代表者ノ命ヲ受ケ技師長之ヲ執行スルモノトス

線路中或ル区域カ敷設ヲ竣リ直ニ開通ノ準備成リタルトキハ技師長之ヲ局長ニ引渡スベシ局長ハ事情ノ許ス限リ右区域ノ運輸ノ為メニ開通シ且ツ適任者一名ヲ日本人ヨリ撰拔シ運輸課長ニ補シ局長又ハ其代表者ノ命ヲ受ケテ營業監督ニ當ラシムベシ敷設工事が全部竣工シタルトキハ技師長ノ任務終了シタルモノトス交通部ハ一名ノ重任者ヲ日本人技師中ヨリ撰拔シ局長又ハ其代表者ノ命ヲ受ケテ鐵路ノ維持ニ當ラシムヘシ

右二名ノ職員ハ予メ会社ト協議シタル上交通部之ヲ任命シ且ツ其聘用契約条件ハ局長之ヲ決定ス

第十七条 本鐵路ノ收入及利得金ハ定期ニ之ヲ 銀行ノ本鐵路勘定中ニ払込ミ之ニ対スル利息ハ場合ニ從ヒ本銀行カ当座勘定又ハ定期預金ニ対シ付スル所ノ利息ト同一利率タルベシ

線路ノ運轉及維持費ハ本鐵路ノ收入及利得金ヨリ之ヲ支払ヒ其殘余ハ本債券ノ元利金ノ支払ニ充當ス

代理人ハ材料購入ノ際ハ其原価ノ百分ノ五ノ手数料ヲ支給サルヘキモノトス

鐵路局長ノ承認ナキ材料注文書ハ無効ナリ又局長ノ承認ヲ得サル經費ハ支出スヘカラズ

材料注文書又ハ經費ニ関スル局長ノ承認ハ技師長之ヲ申請スルモノトス

会社ハ購買手数料ヲ受クル為メニ鐵路ノ敷設並ニ設備品ノ為メニ必要ナル各外国材料ノ購買ヲ監督シ一般市場ニ於テ可成最低率ニ之ヲ購買スヘシ而シテ其材料ハ善良ニシテ満足スヘキ品質ノモノナラサルベカラス

鐵路局ハ右材料カ本国ニ到達シタル場合ニ要件ニ滿タザルトキハ之ヲ拒絶スルノ權利ヲ有ス

價格及品質同一ナルトキハ日本ハ他ノ外国製品ニ対シ優先權ヲ付与セラルルモノトス

送状正本及検査官ノ証明書ハ鐵路局ニ交附セラルベシ諸種ノ手数料及割戻金ハ凡テ鐵路局ノ名義ニ記帳サルヘキモノトス又本鐵路局ニ代リテ代理人ノ為シタル買入ハ總テ製造者ノ送状正本及検査官ノ証明書ヲ以テ之ヲ証明スヘキモノトス

右材料ノ購買ニ際シテハ鐵路局長ヨリ之ヲ入札ニ付スルモノトス
代理人ハ海外輸入品並ニ材料ノ各入札約定注文ノ場合ニ於テ鐵路ニ最モ有利ナル条件ヲ以テ必要ナル材料ヲ購買スヘキモノトス

前記ノ手数料ノ外何等ノ報酬ヲモ代理人ニ与フル事ナシ但シ顧問技師ヲ雇入レタルトキハ右技師ニ対スル報酬ハ鐵路資金ヨリ之ヲ支払フヘキモノトス

中国工業奨励ノ主旨ニ依リ価格及品質同一ナル中国製品及材料ハ日本及其他外国品ニ比シ優先権ヲ与フベキモノトス

此中国製造品及材料ノ購入ニ関シテハ鐵路局ハ何等ノ手数料ヲモ会社ニ支払ハザルモノトス

鐵路敷設工事竣工後ト雖モ本債券ノ有効期間内ニ在リテハ会社ハ将来鐵路局ト会社トノ間ニ協定サルヘキ条件ニ從ヒ鐵路局カ必要トスル外国材料及物品ノ供給ニツキ右代理業ノ優先権ヲ与ヘラルヘキモノトス

第十九条 本契約ノ路線ニ關係スル枝線又ハ延長カ将来中国政府ニ有利若クハ必要ト思ハルルトキハ中国政府ハ其自由ニ処分シ得ル中国財源ヨリ出ツル所ノ資金ヲ以テ之ヲ敷設スベシ若シ外国資本ヲ必要トスル場合ニハ会社ニ優先権ヲ与フヘキモノトス

右延長線及枝線ノ距離ハ中国政府之ヲ決定ス

第二十条 本契約ニ依リ会社ヲ以テ債券所持人ノ受託者ト

成シ内式通ハ中国政府ニ電通ハ駐北京日本公使ニ他ノ電通ハ会社ニ保存スルモノトス

右契約ノ解釈ニ関シ疑問起リタル場合ハ日本文ノ意義ニ遵フモノトス

民国七年 月 日
大正七年 月 日

四五二 五月五日 後藤外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

南滿鐵道延長線借款ニ関シ中国政府ノ意向確

メ方訓令ノ件

第三〇七号

貴電第四七一号及東亜側電報ニ依レハ南滿鐵道延長線ノ件ハ都合能ク進捗シ居レル模様ナル処一面葉交通次長ニ於テ斯ル考案ヲ有スルトスルモ結局支那政府ノ承認ヲ得ルコト或ハ困難ナラスヤト懸念スヘキ情報ヲモ耳ニスルニ付貴官若ハ貴館員ヨリ夫レトナク非公式ニ葉次長ニ対シ同次長及東亜間ニ本鐵道ニ付交渉中ノ次第アリ殊ニ順調ニ進捗シ居ル趣ヲ伝承シ甚タ満足ニ感シ居ル旨ヲ述ヘ其ノ機ニ於テ本件カ結局支那政府ノ承認ヲ得ルコト困難ナルヘキヤ否ヤニ

ス将来鐵路局ト会社トノ間ニ本債券ニ関シ又ハ本債券ト關連シテ起ル所ノ諸問題ニ関シ生スヘキ所ノ将来ノ交渉ニ付テハ会社ハ債券所持人ヲ代表シ且ツ之ヲ代理スル權利ヲ有スルモノト看做スベシ

第二十一条 本契約ノ調印後ニシテ又本債券發行ノ目論見書發表前政治上若シクハ金融上ノ危機發生シ市場及在来ノ中国政府公債ノ価格ニ影響ヲ及ボシ会社ノ意見ニテ本契約ノ諸条件ヲ以テ債券ヲ發行スルモ成効覺束ナント思ハルル如キ事アルトキハ会社ハ本契約ノ実行ニ関シ双方ノ合意ニ依ル相當ノ猶予期間ヲ与ヘラルヘシ若シ右猶予期間内ニ尚債券カ發行サレザルトキハ本契約ハ無効トナルベシ而テ本契約第三条末項ノ規定ニ仍ル前渡金ハ之ニ其利息ヲ附スル外何等ノ賠償又ハ報酬ナクシテ中国政府ヨリ之ヲ償還スルモノトス

第二十二条 本契約ハ民国七年 月 日即大正七年 月 日締結調印ノ上

大總統ノ批准ヲ經テ外交部ヨリ正式ニ駐北京日本公使ニ照会シタルモノトス

第二十三条 本契約書ハ支那文及日本文ヲ以テ各四通ヲ作

付内々同次長ノ見込ヲ質タシ応答振回電アリ度シ

四五二 五月七日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南滿鐵道延長線借款ニ関スル中国政府ノ意向

ニ付葉交通次長ノ意見確メ回電ノ件

第六三七号

貴電第三〇七号ニ関シ五月六日交通次長不在ナリシニ付七日芳沢同次長ヲ往訪シ御電訓ノ趣旨ニ基キ然ル可ク内々同次長ノ見込ヲ問ヒ質シタル処次長ハ此際当局トシテ言明ヲ与フルコトハ困難ナルモ友人トシテ自分一己ノ私見ヲ申上クレハ元来本件ハ(一)南滿鐵道ヲ国有トナスコト(二)該鐵道ヲ南昌ヨリ福州ニ延長スルコト(三)借款ヲ起スコトノ三問題ヨリ成立セル次第ナル処右三問題共ニ當該地方ト重大ナル利害關係ヲ有スルニ付先ツ以テ地方人士トノ間ニ話合ヲ遂ケタル上地方人士ヨリ中央政府ニ申請セシメタル後認可ヲ与フルノ形式ニ依ルコト必要ニシテ万一地方人ヲ差措キ先ツ中央政府ニ於テ決定ノ上地方人士ヲ押付ケントスルニ於テハ必ス地方人士ノ反抗ヲ激發シ遂ニ本件計畫ヲ不成功ニ終ラシムルノ虞無キヲ保シ難ク旁々前陳ノ通り先ツ以テ地方

人士トノ間ニ議ヲ纏メシムルコトトシ度キ意向ナル旨ヲ述ヘタルニ付芳沢ヨリ若シ貴見ノ通り地方人士トノ間ニ議纏リタル後地方ヨリ申請シ来ルニ於テハ政府ニ於テ承認ヲ与ヘラルル見込ナル可キヤト推問シタル処是亦全然一己ノ私見ニ過キサルモ曹汝霖及自分カ交通部當局ノ任ニ在ル限リ政府部内ノ議ヲ纏ムルコトサシテ困難ナラサル可キヤノ内意ヲ漏シタル由不取敢

四五三 五月十六日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

葉交通次長ト橋トノ交渉進捗状況ヲモ確ムヘ

キヤニ関シ請訓ノ件

第六八三号

往電第六三七号ニ関シ

東亞興業ヨリ橋ニ対シ本件商議進行ノ程度カ本使ノ電報ト橋ノ本社ニ対スル報告トノ間ニ多大ノ相違アルニ付更ニ同人ノ見込至急電報方電命シ来レル趣ノ所貴電第三〇七号ノ御下問ニシテ橋ト葉次長トノ商議ノ進捗如何ニ何等カノ御懸念アルニ基キタルモノナルニ於テハ念ノ為メ一言申上置度儀之レアリ即チ実ハ本使ニ於テハ前頭御電訓ノ趣旨ハ橋

ルルヲ以テ其前北上ヲ要スルト江西財政上ノ要務モ帯ヒ居レリト云フ

四五五 五月十八日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯鐵道延長線借款ノ条件ニ対スル日本側ノ

意向橋ヘ電報スル様東亜本社ニ伝達方稟請ノ

件

第六九七号

往電第六八三号ニ関シ

橋ヨリノ申出ニ依レハ同人ヨリ東亜ヘ電報セシ通りノ条件ニテ差支ナケレハ仮契約ノ性質ヲ以テ文書ヲ交換スルコトヲ得トノコトナルニ付此ノ点ニ関シ日本側ノ意向至急決定電報スル様東亜ヘ御伝ヲ請フ尚表面ハ先ツ地方人民トノ話合ヲ作ルコトナリ居ルモ其実南昌福州延長線ノ契約内決ノ上ニテ南潯鐵道ノ処分ニ取掛ル手順ナル由ニテ其形式ハ李盛鐸及江西地方人ヲシテ南潯鐵道国有ヲ請願セシムル筈ナリト言フ(十八日)

四五六 五月十九日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

六 南潯鐵道ニ関スル件 四五六 四五六 四五六

ト葉トノ商議進捗後ニ於テ果シテ支那政府ノ承認ヲ得ルコト困難ナラサルヘキヤ否ヤニ付同次長ノ見込ヲ問ヒ糺スニ在リテ兩人商議進捗ノ程度ヲモ確カムヘシトノ御趣意トハ了解セサリシヲ以テ芳沢ニ於テモ右ノ心得ヲ以テ葉ト応待シタル次第ナルノミナラス葉カ同人ト橋トノ個人的商議ノ内容等ニ関シ本使ニ対シテハ勿論當館員ニ対シテモ詳細打明クルコトヲ回避スヘキハ支那人ノ通有性トシテ免レ難キ儀ト思料セラルルニ付商議進捗ノ程度如何ヲモ確カムヘシトノコトナルニ於テハ更ニ右ノ心得ヲ以テ措置致スヘキニ付何分ノ義御電訓相成タシ

四五四 五月十七日 在九江河西領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

李盛鐸急遽北京向出発ノ件

第二一号

南潯鐵道總理李盛鐸ハ同鐵道国有問題ニ関シ江西方面ト北京當局者ト商議中ノ所双互ノ意向モ稍ヤ進捗シタルヲ以テ之レカ協議ノ為メ俄カニ五月十五日北京ニ向ケ出発シタリ又伝聞スル所ニ依レハ彼レカ急遽出発シタルハ予テ懸案タル彼レノ刑事問題モ解決ヲ告ケ一面ニハ張勳近々特赦セラ

南潯鐵道延長線借款ニ関スル中国政府ノ意向

ニ付曹汝霖ノ意見確メ方訓令ノ件

第三三七号

貴電第六八三号ニ関シ

本件交渉ハ差向キ橋及葉交通次長間ノ個人的商議ニ委シ貴館側ヨリハ之ニ関与スルコトナキ方可然從テ支那側ニテモ詳細其ノ内容ヲ貴館側ニ打明クルコトヲ好マサルヘキハ當方ニテモ略ホ推測シ居レル処ナルカ過般來大藏省側ニテハ本件ハ結局支那政府ノ承認ヲ得ルコト困難ナルヘシトノ感想ヲ抱キ居レル模様ニテ右ハ西原龜三筋即チ曹汝霖辺ヨリ出テタル消息ニ基クモノカトモ思考セラレタルヲ以テ旁往電第三〇七号ノ通り申進シタル次第ナリ就テハ橋トモ御相談ノ上同人ト葉次長トノ交渉上差支ナキニ於テハ貴官ヨリ内密ニ本鐵道借款契約カ葉ト橋トノ間ニ纏マル場合ニハ支那政府ニ於テ之ヲ承認スル所存ナリヤ否ヤ曹汝霖ノ意見ヲ確メラレ回電アリタシ

四五七 五月二十二日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯鐵道延長線借款ニ関スル中国政府ノ意向

ヲ更ニ交通總長ニ確ムルコトハ見合セ度キ件
第七一六号

貴電第三三七号ニ関シ御来示ニ依リ事情委細判明シタルカ
貴電末段御訓示ノ本件借款契約ノ許否ニ関スル支那政府ノ
意向如何ヲ更ニ曹汝霖ニ確ムルコトハ仮令同人ニ申入ルル
モ此事宜ニ葉次長ノ耳ニ入ルヘキハ極メテ明白ニシテ結局
既ニ先般葉トノ間ニ懇談ヲ遂ケ置キナカラ又々曹ノ意見ヲ
確ムルコトトナリ如何ニモ葉ニ對スル不信ヲ示スノ感ヲ与
ヘ同人ヲシテ不快ノ念ヲ懷抱セシムヘキハ当然ニシテ此ノ
如キハ本件交渉ヲ円満ニ促進セシムル上ニ於テ得策ニアラ
スト信セラルルニ付曹ヘノ交渉ハ差向キ見合スヘキニ付右
様御承知相成度シ又往電第六九七号ニ関シ至急日本側ノ意
向ヲ決定スル様御督促ノ上結果御電示ヲ請フ

四五八 五月二十三日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

南潯鐵道延長線借款ニ関シ中国政府ノ承認ヲ
得ル見込確實ナリヤ承知致度キ件

第三五一号

貴電第七一六号ニ関シ

追テ別紙御用済ノ上ハ御返戻ヲ得度為念申添候
註 別紙ハ前掲ニ付省略ス

四六〇 五月二十五日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯鐵道延長線借款ニ関シ中国政府ノ承認ヲ
得ルノ見込アリヤニ付テハ葉次長ノ芳沢ニ對
スル説明ニ信賴スルノ外ナキ旨回電ノ件

第七三七号

貴電第三五一号ニ関シ本件契約カ将来容易ニ支那政府ノ承
認ヲ得ルノ見込確實ナリヤ否ヤニ付テハ往電第六三七号ヲ
以テ電報セル葉次長ノ芳沢ニ對スル回答即チ同人及曹汝霖
カ主務官庁ノ首脳トシテ專任スル限政府部内ノ議ヲ纏ムル
コト差シテ困難ナラサルヘシトノ説明ニ信賴スルノ外無之
是レ以上先方ノ言質ヲ得ルコトハ到底不可能ノ義ト存ス將
又本件カ故障ナク進捗スヘキヤ否ヤニ付テハ從來此種ノ案
件カ時トシテ予想外ノ故障ニ依リ逆転ヲ見ルコト尠カラサ
ルノ事實ニ顧ミ此際本使ニ於テ確固タル保証ヲ与フルコト
ハ勿論困難ナルモ從來ノ経過ニ顧ミ意外ノ障礙發生セサル
限リ以先大體円満進捗ノ見込アリト申上ルノ外無之ニ付右

貴電第六九七号ニ對スル決定ヲナスニハ先ツ是非共本件ニ
関スル支那政府ノ内意ヲ承知スルノ必要アリ旁々往電第三
三七号ノ通り訓電ニ及ヒタル次第ナルカ御来示ノ通り此際
曹汝霖ニ就キ確ムルコト不得策ナルニ於テハ兎モ角橋ト葉
交通次長トノ間ニ仮契約ヲ調印セシメ置キ将来容易ニ支那
政府ノ承認ヲ得ル見込確實ナルヤ其他本件ハ故障ナク進捗
スル御見込ナルヤ其ノ辺ノ御意見本件決定ニ先チ今一応承
知致シ度シ

四五九 五月二十三日 小幡政務局長ヨリ
小田切正金銀行取締役宛

南潯鐵道延長線借款契約案ニ對シ意見開示方
依頼ノ件

拝啓陳者目下支那当局ト東亜興業会社トノ間ニ南昌福建鉄
道ニ関シ内密交渉中ノ次第有之東亜側ニ於テ本件交渉ノ成
行ニ顧ミ大体海蘭鐵道借款契約ニ準シ別紙^(註)ヲ通り本鉄道
借款契約案ヲ作成シタル次第第二候処貴下ハ曩ニ四鄭鐵道借
款交渉ノ衝ニ当ラレ種々御經驗モ有之事ト被存候ニ付テハ
右契約案御一覽ノ上何等御氣付ノ廉有之候ハハ至急御高見
御回示相成度右内密御依頼迄得貴意候 敬具

様御了承アリタシ

四六一 五月二十九日 古市東亜興業会社社長ヨリ
後藤外務大臣宛

南潯延長線借款問題ハ其交渉進行ヲ一時見合
ノコトト致度趣ノ大蔵大臣ノ希望ニ鑑ミ本件
処置振ニ付伺出ノ件

拝啓南福鐵道敷設借款問題ニ関シテハ段々貴省御指図相受
ケ支那側ト交渉相続ケ居リ最近先方ヨリ契約案ヲ提議スル
迄ニ相成候儀ハ已ニ御承悉ノ通ニ有之候処昨二十八日勝田
大蔵大臣閣下ニ拝芝ヲ得候節目下帝國政府ニ於テ支那財政
当局トノ間ニ極メテ重大ナル問題ニ関シ御協議中ノ事モ有
之候趣ニテ弊社交渉中ノ南福鐵道問題ハ多少右兩政府間ノ
問題ト矛盾致候哉ニモ同大臣ニ於テ御考相成居候ニ付弊社
ニ於テ該交渉ノ進行ヲ一時見合セ候事ニ致候儀御希望ノ趣
ニ有之弊社トシテハ是レ迄交渉相続ケ候立場ニ顧ミ困難至
極ニハ御座候得共政府ノ御方針ニ相副ハサルコトヲ遂行致
候如キハ固ヨリ弊社ノ意ニ無之候ニ付此際弊社トシテ本問
題ニ関シ如何処置致候事帝國政府ニ於テ御希望相成候次第
ニ有之候哉何分ノ御意嚮可相成速ニ御決定ノ上御垂示相仰

度弊社トシテハ此際南福鐵道借款ハ仮契約締結ノ交渉ヲ相進メ本契約締結ノ時期ヲ遅延セシムヘキ考ニテ交渉致シ以テ帝國政府御考量中ノ問題ノ御交渉ト抵触セサル様致度ト存候其辺御含ノ上可然御詮議相仰度此段奉願候 敬具

大正七年五月二十九日

東亜興業株式会社

社長 古市公威(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

(欄外註記)

「五月二十九日古市社長持参」

四六二 五月三十日

小幡政務局長ヨリ
後藤外務大臣宛

南潯鐵道延長線敷設ニ関スル我軍部ノ意向及
本件ガ廟議決定済ノモノトシテ処理セラレ来
リシ事情ニ付報告並蔵相提議ノ鐵道借款統一
案ニ関シ意見稟申ノ件

拝啓昨日之御内命ヲ奉シ大島陸軍大臣ニ面謁之上御指示之趣旨及伝陳候処同大臣ハ福建省沿岸之一地点ヨリ長江之中腹ニ達スル鐵道線路ハ我陸軍ニ於テモ軍事上之予定線路ト

スルハ甚タ不得策カト被存候少クモ兩問題ハ同時ニ兩々話ヲ進行セシムル様廟議御決定相成可然ヤニ愚考候 敬具

註 附屬書省略

四六三 六月七日

後藤外務大臣ヨリ
古市東亜興業会社社長宛

南潯鐵道延長線借款ニ関シ仮契約締結差支無

キ旨指令ノ件

政機密送第五〇号

指令案

南昌福建線ノ件ニ関シ五月廿九日付貴信ヲ以テ御伺出ノ次第ハ右貴信末段ノ方針ニテ措置セラレ差支無之候右及指令候也

(欄外註記)

一 「六月四日田中參謀次長首相ニ面会ノ節首相ハ本件モ西原案同時ニ進行セシムヘント言ヘル由同次長ヨリ内話アリタリ(小幡政務局長)」

二 「六月八日蔵相外相ヲ訪問シタル節本件ニ関シ外務省ニ於テハ兎モ角指令案通り決定セルニ付将来本契約調印ノ上資金ヲ要スル場合ニハ該資金調達方工夫アリタキ旨外相ヨリ蔵相ニ対シ申入レラレタリ(小幡政務局長)」

六 南潯鐵道ニ関スル件 四六三 四六四

シテ夙ニ其布設ヲ希望シ居ル次第ナルカ故ニ明日閣議ニ附議セラルル場合ニハ率先同意ヲ辞セサル旨言明被致候右之次第茲ニ及復命候將又本線路ハ曾テ福建經營ニ関シ海軍省ヨリ提議アリタル問題ナルニ顧ミ一応海軍大臣ノ注意ヲモ喚起シ置クコト適當ト認メ山川參事官ヲ經テ本線ニ関スル交渉之成行及ヒ昨日小官陸相訪問ノ事情ヲ説明シ明日ノ閣議ニ於テ附議セラルル場合ニハ海相ニ於テモ之ヲ支持セララル様打合ハセ置候間是又御含置被下度候尚明日閣議ノ節自然可上話頭ト思料シ八月十日首相蔵相打合済ノ書類及ヒ首相ノ署名アル林公使ニ対スル電訓案外ニ説明書一通茲ニ封入致置候間御一覽置被下度要スルニ本件鐵道ハ已ニ廟議決定済ミノモノトシテ当省ニ於テ之ヲ処理シ東亜興業ヲシテ交渉ヲ進行セシメタル次第ト御承知被下度候

之ヲ要スルニ蔵相提案ノ鐵道借款統一案ハ概要肯綮ヲ得タル一種ノ根本策トシテ素ヨリ之ヲ進行スルニ異議ヲ挾ムヘキ筋合ノモノニ無之候ヘ共之カ成否モ未定ナルノミナラス仮令支那政府ニ於テ同意スルモ民間反對等ノ為メ其前途モ如何有之乎不明確ノモノタルヲ免レス之カ為メ今現ニ責任アル交通部当局ト具體的ニ進捗シツアル問題ヲ犠牲ニ供

四六四 六月七日

古市東亜興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

南潯鐵道延長線借款仮契約調印方橋宛電報写

提出ノ件

附屬書

同日古市東亜興業会社宛在北京橋三郎宛

電報写

仮契約調印方ノ件

拝啓予テ御配慮相蒙リ居候南潯鐵道延長線借款契約ノ件ニ関シ在北京当社出張員橋三郎ヘ別紙写ノ通り發電致候間御承知置被成下度候 敬具

大正七年六月七日

東亜興業株式会社

社長 古市公威(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書)
写

大正七年六月七日

東亜興業会社

北京

橋 三郎宛

電見タ貴殿ハ此際從來ノ交渉ヲ其假繼續シ左ノ要項ニ依リ至急仮契約ヲ調印ノ上ニテ報告旁一応帰京セラルヘシ
甲 予テ先方ト打合済ノ借款契約（第十三条ヲ改定）中利率、据置期間ハ六分其後ハ五分トシ手取ハ発行ノ都度協定スルコト

前渡金五百万円ハ利率正味七分但シ本契約調印ノ節交付スルコト

乙 此際大体ノ仮契約ヲ為シ総テ後日ニ譲リ単ニ線路、金額、期限ヲ定メ其他ノ条件ハ信浦又ハ四鄭線ニ依ルコトヲ記入シタル借款大綱（利息手取等ハ後日ニ譲ル）ノミヲ交換スル事

以上甲乙二案ノ内先方ト懇談ヲ遂ケ貴殿ノ便利ト信スル方ヲ択フコト愈調印ノ節ハ一応公使館ノ内覽ヲ經尚ホ当方ニモ全文電報シタル上指図ヲ待チテ調印セヨ 注意四鄭ノ利子ハ五分ナルモ手取ハ八十二ナリシコトヲ含ミ置ケ 以上

四六五 六月八日 在中国林公使ヨリ 後藤外務大臣宛（電報）

南滿延長線借款ノ条件ニ関シ日本政府ノ意向
至急開示方稟請ノ件

指令済ノ件

第四〇〇号

貴電第七九一号ニ関シ

政府ニ於テモ南昌福建線借款契約ノ成立ハ希望スル所ナルカ故ニ東亜興業ニ対シ不取敢仮契約取結方指令シ東亜ヨリ直チニ貴地橋ニ詳細電訓シタル筈ニ付委細ハ同人ヨリ御聴取ノ上速ニ右仮契約ノ締結ヲ見ル様適宜必要ノ援助ヲ与ヘラレ度シ

四六七 六月十八日 古市東亜興業社長ヨリ 小幡政務局長宛

南滿鐵道延長線借款仮契約締結ニ関スル橋来

信写提出ノ件

附屬書 六月十二日附在北京橋三郎ヨリ東亜興業 会社宛書信写

拝啓別紙北京橋三郎ヨリノ書面写為御参考供御高覽候

敬具

大正七年六月十八日

東亜興業株式会社

社長 古市公威（印）

第七九一号

（六月九日接受）

往電第七三七号ニ関シ支那側ヨリ提出シタル条件ニシテ大体御差支無之限リ商議円満進捗ノ見込アルニ不拘今日ニ至ル迄御確答ニ接セサルハ本使ノ了解ニ苦シム次第ナル所当地ニテハ或ハ目下本邦ニテ計画サレツツアル某資本団ノ成立ヲ俟チ同団ノ附屬事業トスル底意アル為メ殊更ニ我回答ヲ遷延セシメラルルニアラスヤト推測スルモノアリ若シ果タシテ右様ノ次第ナルニ於テハ之レ全然我方内部ノ事情ニ属スルカ故仮令本件カ今日東亜ト支那側トノ間ニ協定サルルニセヨ我方内部ノ關係ニ於テハ将来如何様ニモ談合出来得ヘキヤニ認メラルルニ付テハ此際種々ノ口実ヲ設ケテ故意ニ躊躇ノ態度ヲ示ス必要ナカルヘク況ヤ之カ為メ支那側ニ対シ東亜ノ信用ヲ失墜セシメ同社今後ノ活動上ニ於テモ多大ノ悪影響ヲ及ホス虞アリト思料セラルルニ付此辺篤ト御考料ヲ加ヘラレ夫レ御協議ノ上至急何分ノ義御回示アランコトヲ希望ス

四六六 六月九日 後藤外務大臣ヨリ 在中国林公使宛（電報）

南滿鐵道延長線借款仮契約締結方東亜興業ニ

外務省政務局長 小幡西吉殿

（欄外註記）

「昨日橋ヘ向ケ其後ノ成行間合ノ電報相発シ候行違ヒニ本信入手致候間不取敢供御覽候 龍平」

（附屬書）

写

大正七年六月十二日

北京

橋 三郎

東亜興業会社宛

拝啓六月八日發貴電拝見仕候甲、乙両案ノ内ヲ以テ仮契約締結ノ上一応帰東セヨトノ御指図敬承仕候
愈昨日ヨリ甲案ノ方先方トノ折合モ好ク且ツ幾分具体的ニモ有之候間御申越ノ主意ヲ以テ交渉開始仕候大体ニ於テ太シタ相違ハ有之間敷ト存候只手取ノ実数ニツキ予定出来サル事力支那側ニハ余程困却ノ体ニ見受ケ候
又六月十一日貴電モ拝見外務省ヨリ公使ヘノ訓電ノ意味是亦敬承已ニ昨日芳沢氏ヨリ其旨承知仕候万事公使館ノ意見ヲ聞キ行動可仕御安神被下度候交渉始末ハ其毎度御報告可申上左様御承知被下度候

以上

四六八 六月十八日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

南潯鐵道延長線借款仮契約調印方及延長路線

ニ関スル件

第八三九号

貴電第四〇〇号ニ関シ支那側ト橋トノ間ニ大体話纏リ委細
同人ヨリ東亜ニ電報シタルニ付御取寄セノ上御査閲アリ度
ク本使ニ於テモ右ニ依リ確定方然ル可シト思考スルニ付至
急右様取扱方東亜ヨリ橋ヘ電訓スル様御指図相成度ク尚橋
ト交通部トノ間ニ仮契約調印ニ先立チ本使ヨリ同部ニ宛テ
九江南昌間ノ鐵道ニハ從來日本ヨリ巨額ノ資金投セラレ居
ルニ顧ミ該線ヲ急遽發達セシメンカ為之ヲ南昌ヨリ韶州若
ハ杭州迄又ハ九江ヨリ武昌迄延長セラレンコトヲ希望スル
旨ヲ申入レ同部ヨリ之ニ対シ右三線ハ何レモ事情アリテ応
諾シ難キニ付南昌ヨリ福州ニ延長方如何トノ趣旨ニテ回答
スルコトニ内議ヲ遂ケタル趣ノ処右ハ本使ニ於テモ尤モト
認ムルニ依リ右様取計フ可キニ付御含置アリタシ

四七一 六月二十日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

南潯延長線借款仮契約ニ付交通部ニ正式申入

ノ必要アリシ旨及延長路線ニ付テハ漠然タル

申入ニ止マリシ旨釈明並追認方稟請ノ件

第八四二号 至急

貴電第四二八号ニ関シ本件ハ是迄橋ト支那側トノ間ニ商議
進行中ナリシモ愈之ヲ確定セシムルニハ交通総長ヨリ正式
國務會議ヘ提出ノ上決定スル都合上是非本使ヨリ正式申入
レノ必要アル為橋ヨリノ願出ニ基キタル次第ニテ既ニ六月
十九日書面ニテ申入レヲ了セリ尤モ往電第八三九号ニハ韶
州杭州及武昌等地名ヲ挙ケ置キタルモ右ハ英國及其他ノ関
係モアリ将来差支ヲ生スルヤモ計リ難キ懸念アリタルニ付
之ヲ變更シ殊更ニ地名ヲ挙ケス単ニ江西省ノ西南北ノ三方
中何レヘカ延長センコトヲ希望スル旨極メテ漠然タル申入
レヲ為シ置キタルニ付御来示ノ南昌韶州線等ニ関スル我立
場ニハ何等累ヲ及ホス様ノコト之ナシト存ス又一且發送シ
タル書面ヲ撤回スルコトトモナラハ支那側ヘ帝國政府ヘ何
等東亜ノ計画ヲ支持シ居ラサル如キ誤解ヲ与フル虞アリテ

四六九 六月十九日

後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛（電報）

南昌韶州線等三延長線ハ我方ニ於テ考慮中ニ
属スルニ付延長路線問題ニ介入ノ措置ハ見合

セラレタキ件

第四二八号 （至急）

貴電第八三九号ニ関シ

素ト本件交渉ハ貴館ト關係ナク橋ト葉交通次長トノ個人的
商議ニ委シ居リタル次第ニ付此際突如御来示ノ如ク貴官ニ
於テ之ニ介入セラルルカ如キ措置ニ出ツルハ面白カラサル
ノミナラス殊ニ右ハ御承知ノ通り我方ニ於テ折角考慮中ニ
属スル南昌韶州線等三延長線ニ関スル我将来ノ立場ニ累ヲ
貽ス次第ニ付御来示ノ如キ措置ハ見合ハセラレ度シ

四七〇 六月二十日

後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛（電報）

南潯延長線借款仮契約案文電報方ノ件

第四三一号

貴電第八三九号ニ関シ

南昌福建線借款仮契約案全文電報アリ度シ

甚タ面白カラスト存セラルルニ付本件ハ此假御追認アラン
コトヲ請フ交通部宛書面ハ郵送ス

四七二 六月二十二日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛

南潯鐵道延長線ニ関スル曹交通総長宛書翰写

送付ノ件

附屬書

六月十八日附在中国林公使ヨリ曹交通総
長宛書翰写

右延長線ニ関スル件

機密第二五二号

（六月二十七日接受）

大正七年六月二十二日

在支那

特命全權公使男爵 林 權助（印）

外務大臣男爵 後藤新平殿

南福鐵道ニ関スル件

本件ニ関シ在當地東亜代表橋ヨリノ願出ニ基ツキ別紙写ノ
通り曹交通総長宛書面送付及置候右ハ往電第八四二号ヲ以
テ大要及報告置候ヘ共為念右写茲ニ及送付候間御査閲相成
度此段申進候也

(附屬書)

写

第二二号

大正七年六月十八日

曹交通總長

林 公使

拜啓陳者聞ク所ニ抛レハ今回貴部ニテハ九江南昌間ノ鐵道ヲ愈国有トスルコトニ御内定相成候由若シ果シテ事實ナレハ御承知ノ通り該鐵道ハ從來東亞興業株式會社ニ於テ巨額ノ資金ヲ投下シ居ル關係アルニ願ミ同會社ハ將來益該線ノ發達ヲ計ル為更ニ之ヲ江西省ノ西方若クハ北方迄或ハ南方迄延長セシムルコト極メテ緊要ナリト認メ其内何レカ是非御実行方希望致居候ニ付右可然御考量相成度尚何分ノ儀御回示相煩度此段得貴意候

敬具

四七三 六月二十二日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯延長線借款予備契約案文回電ノ件

第八五〇号

貴電第四三一号ニ関シ既ニ支那側ト橋トノ間ニ商議内定シタル予備契約ハ左ノ通

支那政府交通部總長ト東亞興業株式會社代表トノ間ニ潯福鐵路借款ニ關シ予備契約ヲ為ス事左ノ如シ

(一) 借款金額日金四千万円トシ正式契約訂立後市場金融ノ狀況ニ依リ一回又ハ數回ニ東亞興業會社ニ於テ引受ケ公債ノ發行ヲ為スコキモノトス

(二) 借款利息ハ年五分(即チ百円ニ付五円)トシ毎半年ニ分チ二回ニ支払フ可キモノトス

(三) 期限ハ四十箇年トシ前二十箇年ハ單ニ利息ヲ支払ヒ後二十箇年ニ元利ノ償却ヲ為スコキモノトス

(四) 抵当ハ本鐵路及其收入全部トス

本鐵路ハ江西省九江ヨリ同省南昌ニ至ル既成線ト南昌ヨリ福建省福州及馬尾ニ至ル新設線ヲ連結シタルモノトス

(五) 前貸金ハ正式契約訂立ト同時ニ金七百五十万円ヲ東亞興業會社ヨリ交通部ニ交付ス可キモノトス

此前貸金ノ利息ハ月利六厘即チ年七分二厘トス

(六) 南潯鐵路ニ對スル東亞興業會社ノ貸付金七百五十万円及之ニ對スル未払利息ハ交通部ニ於テ引受ケ一時前貸金ノ形式ヲ以テ取扱フ可キモノトス

(七) 本借款ニ對スル支那政府ノ実收金額ハ公債先行價格ノ

實數トシ東亞興業會社ハ額面ニ對スル百分ノ四半ノ手数料ヲ收得スヘキモノトス

(八) 本予備契約訂立後成ルヘク迅速ニ正式契約ヲ訂立スヘキモノトス

(九) 正式契約訂立後遅クモ六箇月以内ニ工事開始ヲ為スヘキモノトス

若シ此期間内ニ本公債ノ發行方不便ナルカ若クハ工事開始後公債ニ依リ資金ヲ得ルニ困難ナル場合ハ交通部ハ東亞興業會社ニ向ヒ前貸金ノ形式ニ依リ資金ノ調達ヲ為シ工事ノ開始及進行ヲ図ルヘキモノトス

(十) 總テノ前貸金ハ公債發行ノ際控除償却サルベキモノトス

右ノ外各種條件ハ浦信鐵路契約ノ条項ニ準拠スヘキモノトス(条文終リ)

前記第二条利息年五分トアルモ懸引上一応ハ年六分ヲ主張スル筈ナリ又從來支那人ノ借款利子ハ年六分五厘ナルニ今回交通部ノ前貸ニ對スル利子ハ七分二厘ニシテ七厘丈ケ割高トナル勘定ナルヲ以テ第六条ニ關シテハ支那側ニ於テ多少異議アル様ナレトモ此ハ何トカ纏リ付ク見込アリトノコ

トナリ尚ホ詳細ナル契約条項ハ總テ浦信鐵道ニ準スルコトトナリ居ルモ多少斟酌變更スヘキ点アルヘキニ付此点ハ橋歸朝ノ上本社ト打合ヲ遂クル筈ナリ本電當局ヘ内示アリタシ

四七四 六月二十五日

後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

南潯鐵道延長線借款仮契約案一部修正ノ件

別 電

同日後藤外務大臣宛在中國林公使宛電報
第四四二号

右仮契約案修正箇所指示ノ件

第四四一号

貴電第八五〇号ニ關シ

東亞興業ニ於テハ別電第四四二号ノ通り仮契約案ニ修正ヲ加ヘ其ノ他ハ全部右貴電通りニテ差支ナキ意嚮ニ付右ニヨリ速ニ本件成立ヲ図ル様可然橋ニ御伝ヘアリ度シ尚別電第四四二号仮契約案第四項但書追加ハ南昌福州線福建部分ノ工事困難若ハ収益ノ見込ナキカ如キ場合ニハ大正五年ノ米支間鐵道借款契約ノ例ニ倣ヒ他ニ適當ノ線ヲ選択スルノ余地ヲ存シ置ク必要アルニヨルモノニシテ又支那側ニ取リテモ収益ノ見込ナキ線若ハ工事困難ナル線ヲ避クルノ得策ナ

六 南潯鐵道ニ関スル件 四七五

ルハ申ス迄モナシ右御含迄以上ハ橋ヘモ伝ヘ置カレ度シ
(別電)

六月二十五日後藤外務大臣発在中国林公使宛電報第四四二
号

南潯鐵道延長線借款仮契約案修正箇所指示ノ件

第四四二号 (別電)

(一)第四項ニ左ノ但書ヲ加フ

「但シ工事上又ハ収益ノ見込如何ニヨリ双方協議ノ上本
鐵路一部ノ変更ヲ為スコトアルヘシ」

(二)第七項ヲ左ノ通り改ム

「本借款ニ対スル支那政府ノ実収金額ハ公債発行価格中
ヨリ東亜興業会社ノ取得スヘキ公債額面ニ対スル百分ノ
四半ノ手数料及公債発行ニ関スル銀行手数料其他ノ費用
ヲ扣除シタルモノトス」

(三)第九項中「前貸金ノ形式ニ依リ資金ノ調達ヲ」ノ次ノ

「為シ」ヲ「求メ」ニ改ム

四七五 六月二十五日

古市東亜興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

南潯鐵道延長線借款仮契約締結交渉経過ニ関

スル橋ヨリノ書信及電報写提出ノ件

四七二

附屬書一

六月十八日附在北京橋三郎ヨリ東亜興
業会社宛書信写

二

六月二十二日在北京橋三郎ヨリ東亜興
業会社宛電報写

(六月二十五日接受)

拜啓北京橋三郎ヨリノ六月十八日附書面及六月二十三日着
電信写別紙ノ通り供御高覧申候

大正七年六月二十五日

敬具

東亜興業株式会社

社長 古市公威(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書二)

六月十八日附在北京橋三郎ヨリ東亜興業会社宛書信写

南潯鐵道延長線借款仮契約ニ関スル件

大正七年六月十八日

北京

橋 三郎

東亜興業会社宛

拜啓兼テ御指図ニ由リ愈仮契約取極メ度決心シ先方トノ交
渉ヲ開始スル傍ラ最近成立セル吉会線契約ノ内容ニ立入り

調査ノ結果大約四鄭線契約同様表面利息ハ五分トシ事実ハ
前貸ノ形式ニ由リ年七分五厘ノ利息ヲ負担スル事ニ相成候
間此方ニテモ當時四鄭線契約ニ準ジ云々ノ御提議モ有之候
事トテ之ヲ当局ニ持出シ種々相談ノ結果当局ニテモ實際上
大分ノ損失トナレトモ吉会線契約ノ前例モアル事故万已ム
ヲ得ストノ事ニテ終ニ

一 契約書表面ノ利息ハ年五分

一 公債売出ノ出来ルマテハ前貸金ヲ以テ工事ヲ為ス此利

息ハ月六厘即年七分二厘ノ割

右ニツキ吉会線ノ七分五厘ヲ主張セシモ吉会ノ前貸金ハ初
メヨリ全部財政部ノ費用ニ供シ鐵道資金ニ使用スルモノニ
アラサル特別關係ノモノナレハ已ムヲ得ス高利ニ承認セシ
次第ナレハ此簿福一件ト同視スル訳ニハ行カストノ事然ラ
ハ月六厘即年七分二厘ト言フ事ニ決定セル次第第二候第十三
条公債発行ノ方法ハ市況ニ見テ耄回又ハ数回ニ発行スル事
ヲ承諾仕候又十三条中ニ万一市場ノ状況カ公債発行ニ不便
ナル場合ハ其為メ工事ヲ中止スル訳ニ行カサレハ便宜前貸
金ノ形式ニテ東亜ヨリ借入スル事但シ其利息ハ前貸金ノ年
七分二厘ニテ計算スルコトト云フ条項ヲ追加仕候

六 南潯鐵道ニ関スル件 四七五

公債発行手数料ハ先方ニテ此際一定シヲキタシトノ事ニ付
キ度々交渉ノ末額面百円ニツキ四円半即百分ノ四半ヲ申受
クル事ニ取極メ候仮令公債ハ将来九十円ニ売サレテモ東
亜ハ百円ニ対スル四半ノ取得ト可相成候
右支那側ニ取リテハ大分不利益ニテ且ツ世間ニ有リ振レサ
ル形ニ候得共其処ハ即支那ニテ此四円半ノ内ヨリ毫円半ハ
当局ニ返戻スヘシトノ条件有之其総額ハ四千万円ニ対シ東
亜ハ百貳拾万円当局ハ六拾万円其六拾万円ヲ本契約調印ノ
時一纏メニ前渡ヲ得タシト云フカ当局ノ魂胆ノ有ル所ニ候
支那側トシテハ此六拾万問題カ此契約全部ノ条件中最モ大
事ノモノニテ之ヲ承諾スル事ハ東亜トシテハ尤モ大關係有
之候間公使モ此際一思ニ東亜ハ引受ケ支出シヤル事万般ノ
都合ヨカルヘクトノ事御奨誘有之候
先ツ大体ノ上ニテ差シタル相違モナシト見極メ候ニ付本日
公使トモ御相談ノ上左ノ意味電信差上候
最近成立セル吉会線契約ノ振合ニ仍リ種々交渉ノ結果契
約書面利息ハ年五分ト定メ公債売出ノ実行出来ルマテハ
前貸金ノ形式ニ依リ工事ノ開始進行ヲ計ル事前貸金ノ利
息ハ月利六厘即年七分二厘トス第十三条ハ御指図通り改

四七三

六 南潯鐵道ニ関スル件 四七六

訂スル事第壹回前貸金ハ南潯回收始末及其改善等ニ入費多キ故金七百五拾万円ニ増額スル事公債発行ニ対スル東亞ノ手数料ハ額面百円ニツキ四円半ヲ申受ケ内壹円半合計六拾万円ヲ正式契約書調印ノ時一時ニ当局ヘ交付スル事其他ノ条件ハ浦信線契約ニ準拠ス

右四鄭線契約ト相類スルモノニテ最初御申越ノ主意ニ合致ス公使モ大ニ賛同アルニ由リ仮契約調印ノ積ナレハ一応御詮議ヲ乞フ 橘

第壹回前貸金ハ五百万円ナリシモ支那側ノ云フニハ南潯ノ始末及其改良等ニ相当ノ費用カカル今ノ為替テ五百万円ハ僅ニ叁百万弗内外ニ過キス之ニテハ到底何ノ役ニモ立たヌ故二百五拾万円ヲ増額シテ七百五拾万円ヲ得タシ又南潯借入ノ七百五十万円ハ第一期公債売出ノ時マテ原利六分五厘ニテ据置ヲ請フトノ事は又御諒承被下度候 以上

(附屬書二)

六月二十二日在北京橘三郎發東亞興業会社宛電報寫
南潯鐵道延長線借款仮契約ニ関スル件

電信見タ相手ハ交通總長曹汝霖也仮契約ハ兼テ御指図ノ通リ字句訂正等モアリ差当リ主要条件丈協定其他ハ全部浦信

ニ乗シ成ル可ク速ニ確定セシムル方或ハ却テ得策ナルヤニ思考セラルルヲ以テ此迄累次電報ノ各条件ニ依リ東亞興業会社ヘ御指図ヲ請フ尚今回本件ノ予備會議ニ関シ最初ヨリ新華貯蓄銀行總理方仁元ノ尽力斡旋一方ナラス若シ愈本契約成立ノ事トモナラハ右ハ全ク同人ノ功ト云フモ差支無キ位ナルニ付交通部ニテハ將來本鐵道ノ機關銀行トシテハ日本側ヨリ指定サルル銀行ノ外ニ前記新華銀行(交通系ト密接ノ關係ヲ有ス)ヲ以テ支那側指定銀行ト致シ度キ旨申出タル由右ハ將來本鐵道事業ヲ円満ニ進捗セシムル為又方仁元奔走ノ勞ニ酬イ且其面目ヲ立テシメ今後共同人ヲ利用スル意味ニ於テ(方ハ江西人ニシテ相当勢力有リ)我銀行ノ利益及業務ニ甚シキ支障ヲ来ササル限り之ヲ応諾スル方然ル可キヤニ存セラル是亦然ル可ク詮議方当事者ヘ御伝ヘヲ請フ新華銀行ノ本鐵道ニ關聯シ取扱フ可キ業務ノ範圍等ハ橘ヨリ東亞興業会社ヘ郵報済ナリ

四七七

七月六日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯鐵道延長線借款第三回會議ニテ議定セル
契約案ト予備契約案トノ相違点報告ノ件

六 南潯鐵道ニ関スル件 四七七

鐵路契約ニ準スル事先方目的ハ公債売行相場ニ依リ極メル口銭ノ戻シハ先方ニ取テハ重大ノ關係アレハ全部先払スル枉ゲテ承諾ヲ願フ

四七六 七月四日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯延長線借款契約ヲ本契約トシタキ旨及新
華銀行ヲ指定銀行トシタキ旨ノ中国側申出ニ
付東亞興業ヘ伝達方稟請ノ件

第八九一号

往電第八五〇号南潯鐵道延長ノ件ニ関シテハ此迄ノ所間接ノ方法ヲ以テ葉交通次長側ト内相談ヲ遂ケタルニ過キサリシ所其後本使ヨリ正式ニ橘ヲ交通總長ヘ紹介シタル結果同總長ヨリ委員一名ヲ指名シ橘トノ間ニ表面上ノ商議ヲ重ネル事既ニ三回略々從來ノ内相談通繼ル事トナリタルモ交通部ニテハ此際仮契約ヲ結フ事ヲ止メ寧ロ本契約ヲ締結シタキ旨ヲ申出デタル由右ハ多分当国政界ノ常トシテ当局者カ何時如何ナル機勢ニ更迭スルカ如キ事發生スルヤモ計リ難キ懸念有ルト其他当局者内部ニモ本件取極メヲ急ク何等カノ事情伏在スルモノト思料セラルル所我方ニ執リテモ此機

第九〇九号

(七月八日接受)

往電第八九一号ニ関シ第三回會議ニ於テ議定セル各条項中往電第八五〇号ヲ以テ報告セル予備契約案ト相違セル主ナル点左ノ通、

(i) 予備契約案四ヲ左ノ通改ム

抵当ハ本鐵道全財産及其ノ收入全部トス但シ回收後ノ南潯既成線ヲ含ム万一新線中建造ニ困難ナルカ又ハ營業ニ収益ノ見込ミ無キ地点ハ相方協議ノ上其幾部分ヲ変更スル事アル可シ

(ii) 予備契約案(v)前借金ハ「正式契約締立ト同時ニ」ヲ「正式契約調印後二カ月内ニ」ニ「交付」ヲ「分割交付」ニ改ム

(iii) 予備契約案(vi)ヲ左ノ通改ム
支那政府ノ公債手取額ハ公債発行ノ実数ヨリ東亞ノ得可キ手数料額面ノ百分ノ四半ト外ニ銀行手数料等ヲ引去リタルモノトス

予備契約案(vii)資金ノ調達ヲ「為シ」ヲ「求メ」ニ改メ且末尾ニ「而シテ此利息ハ年七分二厘トス」ヲ追加ス
予備契約案(viii)ハ此際本契約締結ノ上ハ当然不必要ナル可

四七五

六 南潯鐵道ニ関スル件 四七八

ク又(六)「貸付金七百五十万円」ノ下「及之ニ対スル未払利息ハ」ヲ「ハ限定利息年六分半ニテ」ニ改メ新ニ「南潯鐵道ヨリ東亜ヘノ未払利息ニ対シテハ南潯カ東亜トノ間ニ規定セル延滞利息年九分六厘ヲ以テ計算シ南潯國有ノ議決シタル後全部交通部ニテ引受ケ償却スル事但シ交通部ノ希望ニ依リ元利加算ノ上前借金ノ形式ニ於テ取扱フ事ヲ得其際ハ利息年七分二厘トス」ノ一項ヲ加ヘ且右二項ハ本契約以外別ニ覺書ヲ交換スル筈ナリ將又交通部ヘ返付ス可キ東亜手数料中ノ六十万円(公債手数料八分ノ四半ノ内一半ハ交通部ニ「コンミッシヨン」トシテ返付スル内約ニテ先方ノ希望ニ基キ右総額六十万円ヲ此際一時ニ交付セントスルモノナリト云フ)ハ本契約調印前ニ北京ニ於テ準備シ契約調印ノ終ルト共ニ一時ニ交通部ニ交付スル事

以上為念東亜ヘ御内示アリタシ

四七八 七月六日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛

南潯鐵道延長線借款契約新議定案全文写送付

ノ件

附屬書 右契約新議定案全文写

シテ回又ハ數回ニ分チ東亜ニテ引受ケ公債ノ發行ヲ為スコト

一、借款利息ハ年五分トシ年二回ニ支払フコト

一、借款期限ハ四拾年トシ前二十年据置後二十年間ニ元利ノ償却ヲ為スコト

一、借款抵当ハ本鐵道全財産及其收入全部トス但シ回收後ノ南潯已成線ヲ含ム万一新線中建造ニ困難ナルカ又營業ニ收益ノ見込ナキ地点ハ双方協議ノ上其幾部分ヲ變更スルコト有ルヘシ

一、前貸金トシテ正式契約調印後二カ月内ニ日金七百五十万円ヲ分割交付スルコト此利息ハ年七分二厘トス

一、支那政府ノ公債手取額ハ公債發行ノ実數ヨリ東亜ノ得ヘキ手数料額面ノ百分ノ四半ト外ニ銀行手数料等ヲ引去リタルモノトス

一、正式契約成立後六カ月以内鐵道工事ニ着手スルコト若シ此期間内ニ公債ノ發行出来サルカ又ハ起工後公債ニ由リ資金ヲ得ルニ困難ナル時ハ交通部ハ前貸金ノ形式ニ由リ東亜ニ資金ノ調達ヲ求メ工事ノ開始進行ヲ為スヘキモノトス而シテ此利息ハ年七分二厘トス

六 南潯鐵道ニ関スル件 四七九

機密第二六八号

大正七年七月六日

在支那

特命全權公使男爵 林 權助(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

潯福鐵道借款契約案写送付ノ件

潯福鐵道借款ニ関シ其後東亜興業代表者ト交通部委員トノ間ニ商議ノ歩ヲ進メタル結果第三回會議ニ於テ借款契約綱要ノ議定ヲ見タル次第ハ往電第八九一号具報ノ通ニシテ右議定案項中曩ニ客月二十二日附機密第二五三号ヲ以テ及送付置候仮契約ト相違セル重ナル点ニ就テハ往電第九〇九号ヲ以テ及電報置候得共為念新議定案全文写及送付候間委細右ニテ御了悉相成度此段及報告候也

註 六月二十二日附機密第二五三号省略セリ該機密信ヲ以テ送付セラレタル仮契約案ハ前掲林公使來電第八五〇号(四七三文書)ヲ以テ電報セラレタルモノト同文ナリ

(附屬書)

南潯鐵道延長線借款契約新議定案全文写

三回ノ會議ニテ議定セシ條項左ノ通り

一、借款金額四千万円ニテ正式契約調印後市場ノ情況ニ照

一、前貸金ハ公債ノ發行ニ由リ元利ヲ償却スヘキモノトス其他ノ各種條件ハ浦信鐵道ノ契約ニ準拠ス

右議了済ニツキ交通部ト東亜間ニ直ニ正式契約ヲ締結スルコト

一、南潯鐵道ニ対スル東亜ノ貸金七百五十万円ハ原定利息年六分半ニテ交通部ニ引受ケ暫ク前貸金トシテ取扱フ

一、南潯鐵道ヨリ東亜ヘノ未払利息ニ対シテハ南潯ト東亜トノ間ニ規定セル延滞利息年九分六厘ヲ以テ計算シ南潯國有ノ議決セシ後全部交通部ニテ引受ケ償却スルコト

但シ交通部ノ希望ニ由リ元利加算ノ上前借金ノ形式ニ於テ取扱フコトヲ得其際ハ利息ハ年七分二厘トス

右二項ハ本契約以外ニ別ニ覺書ヲ交換スルコト又交通部ヘ返納スヘキ東亜手数料中ノ六十万円ハ本契約調印前ニ北京ニ於テ準備シ契約調印ノ終ルト共ニ一時ニ交通部ニ交付スヘキモノトス

以上

四七九 七月十日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯延長線借款ノ機密漏洩ノ模様ニ付速ニ本契約締結方ニ関シ稟請ノ件

四七七

四七六

(七月十二日接受)

第九三六号

(七月十二日接受)

往電第八九一号ニ関シ橋ノ申出ニ依レハ本件ハ最早一部支那人間ニ漏レ居ルト見エ現ニ本鐵道工事其他ニ対シ地位ヲ得ント内々運動スル向モアル由ニテ本件ハ早晚外部ニ知レ渡ルニ至ルコトヲ覚悟セサル可カラス其場合ニハ必ス種々ノ物議ヲ惹起シ或ハ是カ為メ意外ノ支障發生スルコト無キヲ保シ難キ懸念アルニ付此際可成速ニ本契約ヲ取極ムルコト諸般ノ關係ニ顧ミ得策ナリト思考スル旨支那側ヨリ注意アリタル趣ナリ右支那側ノ懸念ハ至極尤モト存セラルルニ付テハ可成至急決定の指図ヲ橋ニ電命スル様東亜ヘ可然御内達アリタシ(十日夜)

四八〇 七月十一日

後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

南滿延長線借款前渡金利率ニ関シ橋ヲ援助方

訓令ノ件

附記一

七月六日在北京橋三郎發東亜興業会社宛電報

中国側ノ本契約締結希望及前渡金ニ関スル件

二 七月十日東亜興業会社發在北京橋三郎

宛電報

前渡金七百五十万円ノ利率及交付ニ関シ指示ノ件

第四八九号

貴電第九〇九号ニ関シ

本件前渡金七百五十万円ノ利息ハ七分五厘トスルニアラサレハ成立困難ノ事情モ有之委細ハ東亜ヨリ橋ニ電報セルニ付同人ヨリ御聴取ノ上右七分五厘ニテ取纏マル様同人ヲ御援助アリ度シ

(附記一)

七月六日在北京橋三郎發東亜興業会社宛電報
中国側ノ本契約締結希望及前渡金ニ関スル件

大正七年七月六日發七日来電

北京

橋 三郎

東亜興業会社

昨日迄ニ三回ノ會議ニテ兼テ公使ヨリ伝達ノ各条項及之レニ付御見込(?)ノ要領共公然ノ協定ヲ終リ大概ノ所ニテ交通部当局者ハ此際仮契約ヲ止メ直ニ正式契約ヲ取極メタシ其理由ハ仮契約ノ假時日ヲ經過スル内ニハ外間ノ物議ヲ

生シ内部ノ故障ヲ惹起スル恐レアリト云フ公使モ請求ノ件利益多少アル見込通リ(?)早ク確定セシムル方利益ナレバ自分ヨリモ外務省ヘ電報スヘシト云フ就テハ今日迄ノ議定条項以外ノ条項ハ凡テ浦信鐵道契約ニ準シテ作成シ一々公使ノ意見ヲ聞キ充分ノ注意ヲ以テ正式契約締結ニ掛ルヘシ前渡ハ契約書調印後二カ月内ニテ分割渡シトス又当局者ヘ返スヘキ六十万円ハ契約書調印前ニ北京ニ準備シ調印済ト同時ニ一時ニ支払ヒ決シテ分割ヲ許サレヌトノコト私ハ此六十万円カ本契約成立ノ大原因ト思フニ付是非御承知ヲ乞フ金融益々切迫本日方仁元ニ現金貳万弗ヲ交附ス局面大分切迫シ来ル七万弗急キ御手配ヲ願フ

(附記二)

七月十日東亜興業会社發在北京橋三郎宛電報

前渡金七百五十万円ノ利率及交付ニ関シ指示ノ件

大正七年七月十日

北京 東亜興業会社

橋 三郎宛

前渡金七百五十万円ノ利息ハ是レ迄七分二厘トシテ交渉セシモノナルモ内地金融市場ノ關係並ニ最近成立シタル吉会

六 南滿鐵道ニ関スル件 四八一

鐵道、正金銀行、電信抵当各借款ノ前例ニ照シ七分五厘トスルコト必要ナリ貴殿承知ノ通り吉会ハ七分五厘正金及電信借款ハ何レモ八分ナリ我江西借款ノミ七分二厘トスルコトハ他ニ影響ヲ来タシ且ツ實際資金ノ調達困難ナル故極力説明是非先方ノ同意ヲ得ル様最後ノ尽力ヲ希望ス本件解決ノ上ハ正式契約調印後何時ニテモ前貸金交付出来ルモノト心得ラレテ差支ナシ

(欄外註記)

「大正七年七月十日荒井賢太郎氏及白岩竜平氏大蔵大臣面会ノ際大蔵大臣ハ資金ノ件ハ都合スヘキ旨内話アリタリトノ趣ナリ」

四八一 七月十五日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南滿延長線借款ノ前渡金利率引上ハ不得策ニ

付原利率維持方請訓ノ件

第九四八号

(七月十七日接受)

貴電第四八九号ニ関シ東亜本社ノ来訓ニ從ヒ橋ヨリ先方ト一応懇談の内議ヲ試ミタル由ナルモ時機既ニ遅ク到底先方ヲ説得スル見込ナキ趣ナルカ本使ノ見ル所ニ依レハ同社カ

四七九

利率引上要求ノ理由ノ一トシテ引用セル吉会鐵道契約ノ如キハ元來帝國勢力圈内ニ於ケル事業ヲ目的トスルモノナルヲ以テ比較的我方ニ有利ナル条件ノ採用ヲ迫ルモ支那側ヲシテ承服セシムルコト左シテ困難ナラサルヘキモ本件福線ノ如キハ頗ル事情ヲ異ニシ列強ノ競争ヲ排シテ迅速解決ヲ計ラサルヘカラサル次第ニ付利率其他ノ条件ノ如キモ出來得ル限り寛大ナラシムルコト必要ナリト云フヘク殊ニ本借款ノ如キ利率ニ於テハ吉会鐵道借款ニ比シ低率ナリト雖交渉手数料トシテ百分ノ四半ヲ取得スルモノニシテ仮令其一、五ハ結局支那側ニ返附スルモノトシテモ尚且百分ノ三ヲ取得シ得ヘキ訳合ニシテ之ヲ東亞本社ノ指摘シタル電信借款カ利子八分ノ高率ナルモ一方ニ於テ額面金額渡トシテ全然無手数料ナルニ比シ是亦決シテ不利ナル条件トハ称シ難カルヘク

要スルニ前述ノ通告會、浦信兩借款ハ本件福福借款ノ適切ナル先例トハ目シ難キノミナラス先方ヨリ此際直チニ本契約ヲ調印センコトヲ提言シ來レル好機會ニ於テ利子増率ノ如キ全然新ナル問題ヲ提起シ且我方ニ於テ飽迄モ右ノ主張ヲ固持スルノ結果再ヒ交渉ヲ遷延セシムルカ如キハ決シテ

商人連合シテ政府ニ抗議ヲ提出シ私利ノ為内外ノ風潮ヲ醸成スルカ如キハ交通部ノ為メ執ラサル所ナル旨ヲ陳情セリト伝フルモノモ之レアリ今後益々世論ヲ激成スルニ至ルヘキヤニ認メラルルニ付テハ意外ノ障害發生セサルニ先チ此際速カニ調印ヲ了スルコト極メテ必要ト存セラルルニ付往電第九四八号ニ対シ閣下ニ於テモ御異存之レナキニ於テハ原議通りニテ至急調印方東亞本社へ御諭達相成タシ

四八三 七月十九日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

南滿延長線借款ニ関シ英國公使ヨリ中国政府
ニ質問中ナルヤノ報道ニ付先方ニ確メタル上

其事實ナル場合ニ対スル措置振訓令ノ件

第五二二号至急

七月十七日貴地発新聞特電ニヨレハ英國公使ハ南滿鐵道ヲ福建ニ延長スルハ英國ノ權利ヲ害スルモノトシテ抗議セムカ為不取敢支那政府ニ質問中ナルヤノ趣ノ処右延長線ニ付テハ從來屢々帝國政府ヨリ英國政府ニ申入レタル次第アルノミナラス大正三年中ニハ英國政府ハ帝國政府ニ対シ公文(大正三年三月十九日付政機密送第七三三号参照)ヲ以テ英

策ノ得タルモノニ非スシテ或ハ千仟ノ功ヲ一簣ニ虧クコト無シトモ予斷シ難シト同時ニ当方ノ信用ニ及ホス影響モ決シテ尠少ニ非スト思考セラルルニ付テハ利子問題ハ原議通り進行セシムル外致方ナカルヘク況ンヤ之レヲ実数上ヨリ見ルモ利子引上ノ結果ハ年額僅ニ貳万二千五百円ノ増額ニ過キサル次第ニモ之有リ旁々当方ニ於テ更ニ再考ヲ加ヘ利子ニ対スル新要求ハ潔ク之ヲ撤回シテ速ニ本契約ノ調印ヲ了スル方可然旨篤ト御説示相成様致度シ何分ノ義御電訓ヲ請フ

四八二 七月十七日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南滿延長線借款ノ報道喧伝セラルルニ付原議
通りニテ本契約至急調印スル様東亞興業ニ諭
達方稟議ノ件

第九五五号 (七月十八日接受)

福福鐵道借款ノ報道ハ数日以来当地各新聞紙上ニ喧伝セラレ或ハ仲介者カ莫大ノ賄賂若クハ「コンミッション」ヲ取得スヘキハ既ニ公然ノ秘密ナリトシ或ハ英國公使ヨリ交通部當局ニ質問ヲ發シタルノ外上海ニ在留スル福建省出身ノ

國政府ニ於テハ南昌ヨリ福建ニ至ル鐵道要求ニ付日本政府ヲ支持スルコトニ何等異存ナキ旨ヲサヘ聲明シ居レル次第ナレハ英國公使ニ於テ本件延長線ニ対シ彼是故障ヲ申立テムトスルカ如キハ其本國政府ノ聲明ニ反スル措置ニテ何等カノ誤解ニ基クモノト認メラルルニ付貴官ハ支那當局ニ対シ本件英國公使申入ノ有無ヲ糺シ若シ事實トセハ右英國政府聲明ノ次第ヲ内告セラレ此ノ点ニ関スル英國側ノ故障ハ甚筋違ヒナル旨注意シ置カレ度又必要ノ際ハ英國公使ノ誤解ヲモ匡シ置カレ度シ

四八四 七月二十日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

南滿鐵道延長線借款本契約早急調印方ニ関シ

訓令ノ件

第五二五号(至急)

貴電第九四八号ニ関シ
七月二十日東亞ヨリ橋ニ対シ南福借款ノ件原案ノ七分二厘ニテ前渡金用意シタルヲ以テ從來交渉シタル条件ニヨリ条文ノ字句ニ付テハ貴官ノ指圖ヲ受ケ直チニ正式本契約調印方取計フヘキ旨電報シタルニ付右本契約案文案篤ト御査閱

ノ上差シタル差支ナキ限り当方ニ請訓セラルルニ及ハサル
ニヨリ可然橋ヲ指導シ速ニ本契約調印ノ運トナル様御配慮
アリ度シ

四八五 七月二十日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯延長線ニ関シ英國公使中国政府ニ質問中
ナルヤニ対スル中国政府ヘノ申入ハ未タ其時
機ニ非ザル旨稟申ノ件

第九七〇号 至急

(七月二十一日接受)

貴電第五二二二号ニ関シ

支那当局ヘ申入ノ義ハ機ヲ見テ取計フコトト致スヘク又本
件確定ノ上ハ愈々調印ニ先チ英國公使ヘ其ノ内容ヲ開示シ
誤解ヲ釈キ置クコト必要ト思考セラルルモ本件ノ成否未定
ノ今日右ハ未タ其ノ時機ニ非サル様存セラル何ハ忖置キ往
電第九四八号及第九五五号ノ通至急調印方東亞ヘ更ニ御指
示ノ上御電示相成様致度シ

四八六 七月二十二日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯延長線借款契約締結促進方及英國公使ノ

対スル質問ニ付中国当局ニ至急内話方取計ハ
レタキ件

第五三六号

貴電第九七〇号ニ関シ

森恪ノ内報ニヨレハ曹汝霖ハ南福鐵道借款ノ件ニ関シ最近
英國公使ヨリ故障申出ニ接シタルヲ以テ右借款談ハ事実ニ
アラサル旨一応説明シ置キタルカ英國側ノ主張ニ顧ミ結局
本鐵道ハ日英協同ノ事業トスルノ外ナカルヘキカト思考シ
居レリト森ノ意見ヲ求メ来タリタル趣ナルカ果シテ事実
トスレハ英國側ノ誤解ノ為本件交渉上ニ支障ヲ来シテハ甚
タ面白カラサルニ付貴電第九七〇号ノ次第ハアルモ英國公
使ハ兎モ角支那当局ニ対シテハ矢張り此ノ際直チニ往電第
五二二号ノ通り此ノ点ニ関スル英國側ノ故障ハ筋違ヒナル
次第内話方取計ハレタシ尚前記曹汝霖ヨリ森ヘ申越ノ件ハ
森ヨリ極秘トシテ内報アリタル次第ニ付森ノ迷惑ト成ラサ
ル様絶対ニ秘シ置カレ度シ

註 本電報ハ七月二十三日午後四時五分發送セラレタリ

四八八 七月二十四日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

六 南潯鐵道ニ関スル件 四八八 四八九

中国政府ニ対スル質問ニ付曹交通總長ニ申入
ノ件

第九八〇号

貴電第五二五号ニ関シ

本件ハ是迄橋ト葉交通次長トノ間ニ交渉シツツアリタルモ
今回我ノ態度愈々決定シタルニ付本使ハ七月二十二日曹交
通總長ニ面会シ東亞ニテハ支那側ノ希望ヲ容ルコトナ
リタルニ付テハ可成速ニ協定スル様致シタシ又本件ハ英國
側ヨリ何等故障ヲ申立ツル筋合ノモノニアラサルヲ以テ其
辺ハ少シモ顧慮セラルル必要ナシ為念申添フト述ヘタルニ
同總長ハ本件ニ付未タ英國側ヨリ何等質問乃至抗議ヲ受ケ
タルコトナキモ唯外間ニテハ本件ヲ以テ日支交渉第五項一
部ノ復活ナリトテ種々非難シ居ルニ付今後相応攻撃論議ノ
種トナルヤモ計リ難シト懸念シ居ルノミト答ヘ同總長自身
ハ何等異存ナキ模様ナルヤニ察セラレタリ

註 本電報ハ二十三日午後七時五十分到着

四八七 七月二十三日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

南潯延長線借款ニ関シ英國公使ノ中国政府ニ

南潯延長線借款契約至急取極方段總理ニ申入
予定ノ件

第九八八号

貴電第五二五号ニ関シ

橋ヨリ東亞宛七月二十四日發電ヲ取寄セ御閱覽アリタシ尚
最近ノ機會ニ於テ本使ヨリ本件至急取極方段總理ヘ申入ル
ル所存ナリ

四八九 七月二十六日 荒井東亞興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

福建省有志ノ反対ニヨリ南潯延長線借款契約
調印多少延引ノ旨橋報告提出ノ件

附屬書 七月二十四日在北京橋三郎發東亞興業会社
宛電報享
右報告

(七月二十七日接受)

拝啓南福鐵道借款契約ノ件ニ関シ在北京当社出張員橋三郎
ヨリ別紙寫ノ通り來電ニ接シ候間不取敢供貴覽候 敬具
大正七年七月二十六日

東亞興業株式会社

社長 荒井賢太郎(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書)

写

大正七年七月二十五日来電(二十四日發)

北京

橋 三郎

東亞興業会社宛

諸事協議済不日調印ノ積ナリシニ突然劉冠雄海軍部総長ヲ頭ニ福建省有志連名反対決議ヲ(一語不明) 鑿鑿(?)ニ提出セリ其意ハ只一ノ海軍根拠地タル三都澳へ合セヨ撤去(一語不明) ハ国權利ヲ落スト云フニアリ但何方ハ(一語不明) 馬尾(一語不明) モノニテ三都澳ト尚大分ノ距離アリ交通部ニテハ目下其説明(?) 中不日双方ノ意思氷解スベキモ契約調印(?) ハ多少延引スルモノト御承知アリタシ南潯鐵路国有ノ件ハ経過良好ナリ

四九〇 七月二十六日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯延長線ニ関スル「森恪ノ内報」ノ出所等

二付報告ノ件

論議スル向鮮カラス一面劉海軍総長ハ福建出身ナル關係上同郷人ト連名ニテ本鐵道カ南支唯一ノ軍港候補地タル三都澳迄延長サルルハ面白カラサストテ之ヲ阻止サレタキ旨政府ニ請願シタリトノ風説モ有之旁本使ハ七月二十五日段總理ニ面会シ南潯鐵道ノ来歴及本鐵道が現状ノ低ニテハ到底維持困難ナル実況ヲ詳細説明シ其ノ延長ハ万已ムヲ得サル次第ナル旨ヲ述ヘ目下東亞代表ト交通部当局トノ間ニ協議中ナルカ右決定ノ運ニ至ル様希望スル旨依頼ニ及ヒタル処段ハ本件ハ是迄國務會議ニテ一二度座談的ニ論議サレタルコトアルモ自分ハ能ク承知シ居ラサルニ付一応交通総長ニ面会且相談ノ上更メテ何分ノ儀御挨拶ニ及フベシト答ヘ深ク立入りテ論議スルヲ避クル模様ナリシ依テ本使ハ同日更ニ曹交通総長ニ面会シ段ニ對シテ述ヘタルト同様ノ意味ヲ繰返シ且日本資本家側ニテハ殆ト支那側ノ希望全部ヲ容ルルコトトナリ居ルニ付成ルヘク速ニ確定セシムルコト双方ノ為得策ナルヘキヲ説キタルニ曹ハ去二十二日会見ノ時ト全然態度ヲ異ニシ先ツ本件借款額額ニ依ラス額面全額ノ五分(東亞ハ結局四分五厘迄讓ル管ナルモ目下尚ホ五分ヲ主張シ居レリ) トナリ居リ支那側ニ取り甚タ不利ノ条項ナリ

六 南潯鐵道ニ関スル件 四九二

第九九四号

貴電第五三六号ニ関シ

是レヨリ先キ支那側ヘ申入済ノ次第ハ往電第九八〇号ニテ御了悉ノ通ナル処一方森恪ノ話ナルモノハ滙業銀行董事劉垣カ井坂ニ對シ(井坂ハ劉ノ名ハ公使館限リニ願ヒタシト申居レリ) 南昌広東鐵道ニ付英米両国聯合シテ支那政府ニ抗議シ別ニ英國公使ヨリ質問スル所アリタルニ對シ交通総長ヨリ事実無根ノ旨答ヘタル趣責任者ヨリ聞込タル旨ヲ語リ尚劉ハ英國ト共同カ、少クトモ日本ヨリ英國ノ同意ヲ取得レハ本件ハ成立セラルヘキ旨ヲ附言シタルヲ井坂ヨリ森ニ打電シタル迄ニヤ曹汝霖ヨリ森ノ意見ヲ求メタル等ノ次第ニハアラサル趣ナリ而シテ劉ノ談話ハ實際推測ニ過キスト認メラル

四九一 七月二十六日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯延長線借款契約調印方ニ関シ段總理及曹

交通総長ト各会談ノ件

第九九九号

(七月二十八日接受)

往電第九八八号ニ関シ其ノ後本件ハ当地支那新聞ニテ種々

トノ非難アルノミナラズ本鐵道ハ日支交渉第五項ノ一部復活ナリトテ外間非難ノ声モ高ク目下吉林黒竜江金鉉森林借款ニ對スル風潮恰モ熾烈ナル際本件モ必スヤ激烈ナル世間ノ反対ヲ招クノ虞アルニ依リ旁々本件ノ遂行ハ今暫ク見合ス方双方ノ為メ得策ナリト信スル旨再三繰返シタルニ付本件ハ何等支那ノ主權ヲ損スル所ナク又第三国ヨリ故障ヲ申出ヅル憂ナク只外間ニテ種々ノ臆測ヲ逞シウシテ非難ヲ加ヘ居ルニ過キザレバ是等ハ一旦本件落著ト共ニ其真相ヲ公表スレハ直ニ消滅スル訳ナレハ少シモ躊躇スル必要ナク速ニ遂行スル方却テ彼我ニ取り利益ナリト信スル旨ヲ述ヘテ充分説得ヲ加ヘ置ケリ尚ホ曹ガ俄ニ前述ノ如キ態度ヲ執ルニ至リタルハ単ニ叙上ノ理由ニ出ヅルモノナルヤ或ハ他ニ何等深キ魂胆アル次第ナリヤハ船津ヲシテ篤ト内探セシムル管ナルモ右不取敢電報ス

四九二

八月十日

荒井東亞興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

南潯鐵道延長線借款契約調印遅延ニ関スル中

国側ノ内狀ニ付橋ヨリノ書信写提出ノ件

附屬書

八月一日附在北京橋三郎ヨリ東亞興業会社

重役宛書信写

(八月十二日接受)

拝啓南福鐵道ノ件其後ノ情況ニ関シ別紙写ノ通り北京橋三郎ヨリ報道ニ接シ候ニ付不取敢供貴覽候 敬具

大正七年八月十日

東亜興業株式会社

社長 荒井賢太郎(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書)

八月一日附在北京橋三郎ヨリ東亜興業会社重役宛書信写

大正七年八月一日

北京

橋 三郎

東亜興業重役席 御中

拝啓契約締結ノ件其後新聞風潮ノ為メ支那当局方面ニ一波起リ一浪来ルト言フ有様ニシテ福建方面ノ反対ハ宿老陳璧氏ヲ動カシ鎮撫ニ勤メ漸ク事ナキヲ得タルモ此度ハ江西側ニテ国有反対ノ声高マリ来リ交通当局ヘ対シ種々面倒ナル条件ヲ持込ミ来リ一方陸宗輿一派カ一ハ日本トノ借款ハ自

成目下上海方面ニ推移中ニ候不遠沈靜可仕乎

右現況御通知申上度草々

四九三

八月十一日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南潯延長線借款契約締結促進方ニ関シ曹交通

總長ノ船津書記官ニ対スル示唆ニ付請訓ノ件

第一〇六二号

往電第九九九号ニ関シ曹汝霖ガ本件ノ進行ヲ躊躇スルハ種々ノ事情アル可ケレドモ其主ナル理由ハ例ノ吉黒林鉞借款確定前ニハ成ル可ク他ノ問題ノ為メ風潮ヲ惹起スル事ヲ避ケントノ趣旨ニ外ナラザリシ様思ハレタル所右林鉞借款モ既ニ数日前確定シタルニ付本使ハ此上遷延セシムルハ不得策ト認メ八月十日船津ヲシテ曹ニ本件ノ遂行ヲ督促セシメタルニ曹ハ本件ニ対シ何等異存ナキモ外間ハ勿論政府部内ニモ今尚多少反対ノ向アル模様ニ付此際東亜ヨリ利子支払延期ヲ理由トシ契約ニ基キ南潯鐵道ノ直接管理ヲ外交部ヘ正式要求スル事トセバ之ガ為メ多少ノ物議ヲ惹起スル事アラシモ他面之ガ為メ本鐵道ノ国有及延長ノ実行ヲ促進スル上ニ却テ都合ナランカト思料セラル但シ自分(曹)ガ右

分等ノ權利内ニ在リ他ノ方面ヨリノ日本借款ハ全部反対ナリト我意ヲ立拔キ其為メ曹汝霖モ大分悩マサレ居ル事一ハ梁士詒ノ純交通系ニ桶突ク安福組ノ或者カ交通系ヲ邪魔ヲスル考ヨリ段祺瑞直屬ノ分子ヲオダテ居ル事等難多ノ行札アルラシク勿々思フ様ニ運ヒ不申但シ此方ハ已ニ先方申出全部ヲ承認シ契約案マテモ提示中ノ事ナレハ靜ニ先方ノ成行ヲ眺メ居候一面公使ヨリ南潯貸金今後ノ始末ニツキ外交部ノ方ヘ交渉ヲ開始シ一面交通部ノ方ヘハ曹汝霖ヘ契約調印遲延ノ理由ヲ質問シ貰ヒ夫々油断ナク手配ハ致居候今暫ク模様見物ノ上又施スヘキ方法モ可有之候

只最モ立腹ニ耐ヘサルハ江西株主会ニ於テ羅郎山カ率先シテ国有反対ヲ唱ヘ出シ自ラ其運動ノ為メ上海同郷会等ヲ誘説中ナル事ニ御座候之モ支那人殊ニ羅ノ如キ人物ナレハ当然カモ不知候ヘ共甚タ不都合ノ至ニテ李盛鐸等ハ大ニ憤慨致居候

其他政府部門ト云ヒ民間ト云ヒ自分等懷ニ多少共身入りナキ事ハ道理ノ有無ヲ問ハス反対致居候困リタル事ナカラ是等ニ一々渡リヲツケレハ直ニ費用ノ問題ト相成候間全ク高見ヨリ見物ノ外無之候尤モ北京地方ノ風潮ハ已ニ下火ト相

ノ如キ注意ヲ与ヘタル事ハ絶対秘密ニ附セラレタシト内話シタル趣ナリ就テハ右ノ如キ措置ヲ執リ見ルモ又一方法ト存ズルニ付東亜ト御打合ノ上至急何分ノ義御電訓ヲ請フ

四九四

八月十四日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

東亜興業ノ南潯鐵道直接管理ニ関スル曹交通

總長申出ニ付確メ方電訓ノ件

第六四一号

貴電第一〇六二号ニ関シ

南潯鐵道借款契約ニヨレハ利子ノ支払遲滯スルコト四回ニ及ヒ若ハ元利支払遲滯スル場合ニ初テ東亜ニ於テ本鐵道ノ營業ヲ代ツテ管理スルヲ得ル次第ナル処今日ニテハ利子支払ノ遲滯三回ニ止マリ又元金ハ未タ償還開始ニ至ラサルニ付此際同借款契約ノ規定ニ從ヒ東亜ヨリ支那側ニ対シ右直接管理ヲ要求シ得ヘキ時期ニ達セスト思考セラルル処曹汝霖申出ハ何等適當ノ弁法存スル趣旨ナリヤ為念御確メノ上回電アリ度シ尙支那新国会モ漸ク開会ヲ見ルニ至リ本件ノ前途ニ又新ナル障礙ヲ来スナキヲ保シ得サル次第第二付旁々其ノ辺御如才ナキコトトハ思考スルモ可成速ニ本件取纏マ

ル様此上トモ御配慮アリ度シ

四九五 八月十五日

後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛 (電報)

南潯鐵道延長線借款契約締結促進ノ為ノ交渉

ニ関スル応酬振ニ付回訓ノ件

第六四三号

貴電第一〇七一号ニ関シ

本件ニ関シテハ不取敢往電第六四一号ヲ以テ申進シタルニ付右ト行違ト思考セラルル処南潯鐵道直接管理ノ件ハ右往電第六四一号ノ通り未タ之ヲ要求スル時機ニ達セサルノミナラス契約規定ノ期限ニ先此ノ際直接管理ノ意向ヲ以テ支那側ニ迫ルカ如キ態度ニ出ヅルハ我真意ニ對シ支那側ノ疑惑ト反感トヲ招キ却テ面白カラサル結果ヲ来ス虞モアリ且ツ曹汝霖申出ノ案モ果シテ所期ノ通り効果ヲ挙げ得ヘキヤ其ノ辺確ナル見込モ立タサル様認メラルルニ付旁々本件ニ関シ支那側ト交渉ノ際ハ南潯鐵道ヲ現状ノ俛ニ放任シ置クトキハ本年十二月払ノ利子モ亦延滞ヲ免レサルヘク然ルトキハ東亞ニ於テモ自然債權ノ確保上契約ノ条項ニ從ヒ鐵道ノ直接管理ヲ要求セサルヲ得サルニ至ルヘク之レ當ニ支

ヅルハ遺憾ナルニ付中国政府ノ適當措置ヲ要

望スル旨ノ覚書ヲ同国政府ニ送致ノ件

第一〇八五号

(八月十七日接受)

貴電第六四一号ニ関シ

利子支払延滞期間ノ件ハ御来示ノ通りナルモ南潯鐵道ノ現状ヲ以テセバ東亞ノ有スル債權ノ担保ハ漸次其實価ヲ喪失セラルル虞アルノミナラズ利子支払ノ延滞既ニ三回ニ及ビ今後尚支払ノ見込無キノ事實ニ顧ミ東亞ニ於テハ契約ノ明文ニ照ラシ同鐵路ノ營業ヲ直接東亞ノ管理ニ帰シ以テ鐵路ノ維持ヲ計ルト同時ニ会社ノ有スル債權ノ保護確保ニ努ムルノ必要アリ是レ固ヨリ正當ナル權利ヲ行使スルモノニシテ為ニ勢ヒ地方人民ノ騷擾ヲ惹起スルコトアリトスルモ決シテ会社ノ責任ニ非ルハ勿論ナリト雖隣誼敦睦ノ大局ニ起見スルトキハ頗ル遺憾ニ堪ヘザルモノアルニ付此際政府當局モ深甚ナル考慮ヲ加ヘ鐵路ノ維持改善ヲ図リ以テ債權保護上適當ナル措置ヲ講究センコトヲ要望スル旨ノ覚書ヲ外交部ニ提出スルコトトセバ曹汝霖ノ内部ニ於ケル斡旋ト相俟ツテ他關係ヲ刺戟シ本件ノ解決ヲ促進セシムル上ニ於テ効果尠ラズ思料スル次第第二有之付テハ貴電末段御申越ノ次

那側ノ面目ヲ毀損スルノミナラス東亞側トシテモ甚タ本意ノ次第ニ付此ノ点ヨリスルモ速ニ南潯鐵道ノ国有ヲ実行スルト共ニ其ノ延長ヲ図リ以テ根本的ニ同鐵道ノ救済改善ヲ期スルコト彼我共ニ得策ナリトノ趣旨ニテ応酬スルコト然ルヘシト思考セラルルニ付右ニ御含ノ上前電ノ通り支那国会モ既ニ開会ヲ見ルニ至リ此上遷延スルニ於テハ更ニ又新ナル障礙ヲ惹起スルヲ保シ得サル次第第二付此際速ニ本件ヲ纏ムル様特ニ御配慮アリ度シ尚曹汝霖ノ態度カ斯ク變更ヲ見ルニ至リタルハ如何ナル内情ニ基クヤ貴電第一〇六二号前段ノ次第アルモ或ハ陸宗輿等カ日本トノ借款ハ一切滙業銀行ノ手ヲ經ルヲ要スルカ如クニ主張シ裏面ニ於テ曹ヲ使噤シ居ルカ為メナリトノ情報モアリ旁々其ノ辺ノ内情御確メノ上機宜ニ応シ御措置アリタシ

註 八月十三日林公使發後藤外務大臣宛電報第一〇七一号 (八月十五日接受) 全文左ノ通り

「往電第一〇六二号ニ関シ至急何分ノ義御電訓ヲ請フ」

四九六 八月十五日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛 (電報)

南潯鐵道ニ関シ東亞興業直接管理ノ方途ニ出

第モアルニ付兎ニ角前記ノ趣旨ニ依リ覚書ヲ送致スル事ニ取計フベキニ付右様御承知相成度シ

四九七 八月十六日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛

南潯鐵道問題ニ関シ外交部ニ送致シタル覚書

写送付ノ件

附屬書 八月十五日附外交部宛右覚書写

機密第三二六号

(八月二十二日接受)

大正七年八月十六日

在支那

特命全權公使男爵 林 權助 (印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

南潯鐵道問題ニ関スル件

本件ニ関シ外交部ヘ覚書送致ノ次第ハ往電第一〇八五号ヲ以テ及具報置候処本月十五日附ヲ以テ發送セル右覚書全文写茲ニ及送付候間委細ハ右ニテ御了悉相成度此段及報告候也

(附屬書)

写

覚書

東亜興業株式会社ハ明治四十五年七月以来三次ニ亘リ商弁南滿鐵路公司トノ間ニ合計金七百五十万円ノ借款契約ヲ訂立シ而シテ同鐵路公司ハ之カ担保トシテ其所有財産全部ヲ提供シタリ然ルニ同鐵路其後ノ情態ニ鑑ミルトキハ一日モ速ニ根本的改善ヲ断行スルニ非サレハ満足ナル成績ヲ挙げ難ク從テ今日ノ促推移セムカ東亜興業会社ノ有スル前記債權ノ担保ハ漸次其實価ヲ喪失セラルルノ虞アルノミナラス一方上記借款ニ対スル利子支払ノ延滞已ニ三期ニ及ヒ今後尚回収ノ見込無キノ事実ニ顧ミ東亜興業会社ハ上記明治四十五年七月訂立ノ第一次借款契約第四条ノ規定ニ照シ同鐵路ノ營業ヲ直接東亜ノ管理ニ移シ以テ鐵路ノ維持ヲ計ルト同時ニ会社ノ有スル債權ノ保護確保ニ努ムルノ必要アルニ付右ノ趣ヲ支那政府ニ通告シテ当局ノ考慮ヲ邀ヘラレ度旨今般会社代表者ヨリ帝國公使ニ情願スル処アリタリ查スルニ前顯東亜興業会社ノ要求ハ之ヲ事実ト契約ノ明文ニ照シ素ヨリ正当ナル權利ヲ行使セムトスルモノニシテ之カ為メ勢ヒ地方人民ノ反抗騷擾ヲ惹起スルコトアリトスルモノレ決シテ会社ノ責任ニ非サルハ勿論ナリト雖之ヲ隣誼

敦睦ノ大局ニ起見スルトキハ亦頗ル遺憾ニ不堪モノアルニ付テハ帝國公使ハ先以テ支那政府当局ニ於テ如上ノ事態ニ對シ深甚ナル考量ヲ加ヘ同鐵路ノ維持改善ヲ計リ以テ債權保護確保上適當ナル措置ヲ講究セラレムコトヲ切望ス尚ホ何分ノ儀回答アラムコトヲ請フ

大正七年八月十五日

四九八

八月十七日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

南滿鐵道問題ニ関シ覺書ヲ中国政府ニ送致シ

タルニ付追認方稟請ノ件

第一〇九六号

(八月十八日接受)

貴電第六四三号ニ関シ右ト行達ニ往電第一〇八五号ヲ以テ申進シタル趣旨ニ依リ既ニ八月十五日附ヲ以テ外交部ニ覺書ヲ送致セリ前記往電ニテ御了悉相成ルヘキ通本使ノ趣旨モ亦畢竟貴電御来示ノ意味合ニ外ナラサルニ付右御追認アリタク覺書ヲハ十六日附郵送セリ尚曹汝霖ノ態度ニ関シ陸宗輿カ滙業銀行ヲ割込マセントシツツアルヤノ風説ハ本使ニ於テモ仄聞セル所ナルモ兎ニ角今回ノ計画ニ曹等一派ガ直接緊密ナル關係ヲ有セサル為積極的斡旋ノ態度ニ出テサ

社長 荒井賢太郎(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書)

写

大正七年八月二十一日

北京 東亜興業株式会社

橋 三郎宛

南福借款ニ関スル件

八月一日附貴信及七月廿五日附九江領事代理ヨリ本省ヘノ報告ニ由レハ羅朗山ハ上海ニ赴キ外債反對ノ為メ同志ヲ説キツツアル由同人ノ運動ニシテ若シ我進行中ノ契約成立ニ影響アリト認メラルル場合ハ公使ニ願出上海總領事ニ依頼親敷同人ヲ説得セラルル様致シタシ羅ハ東亜ト從來裏面ノ關係モアリ總領事ハ其關係ヲ詳知セラルルニ付直接ニ又ハ吳端伯ヲ介シテ説得セシメラルル場合ハ十分効力アルモノト信ズ又右ノ手續ヲ取ララルル場合ハ当方ヘモ同時ニ報知サレタク当方ニテモ之ニ応シテ出来ル丈ノ手ヲ尽ス考ナリ南滿鐵道借款契約書ヲ發送シタ

(十七日)

四九九

八月二十一日 荒井東亜興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

上海ニ於テ外債反對運動中ノ羅朗山説得方ニ

関スル橋宛訓電写提出ノ件

附屬書

八月二十一日東亜興業会社宛在北京橋三郎宛電報写

拝啓南福借款ノ件ニ付北京橋三郎ヘ本日別紙ノ通り出電致候ニ付茲許写同封供貴覽申候 敬具

大正七年八月二十一日

東亜興業株式会社

五〇〇 九月三日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中參謀次長宛

南潯鐵道延長ト英國トノ關係其他ニ関スル書

汝霖内話ノ件

坂特電第七一號

南潯鐵道延長ニ関シ本日曹汝霖ノ語ル所左ノ如シ
南昌ヨリ福建ニ向ヒ延長スルコトハ福建人ノ反對多ク且ツ
利益線ニアラサルヲ以テ東亞興業トシテハ必スシモ之ヲ希
望セサルモノノ如シ然ラハ廣東潮州附近若クハ廣東省城ニ
向ハシメンカ英國ノ抗議ヲ覚悟セサル可カラス故ニ過日東
亞興業代表者橋氏ニ向ヒ取敢ヘス江西省内贛州（江西省ノ
西南部ニアリ目下南北兩軍對峙セル大庾嶺ノ東嶺ノ東北約
百支里ニアリ）迄延長スルコトトシテハ如何ト相談シタル
次第ナリ尤モ此線モ英國ヨリノ抗議ノ虞アルコト勿論ナル
モ其端末ヲ潮州トカ廣東省城トカ明示セサル為メ抗議ニ對
スル弁明必スシモ不可能ニアラサルヘシ而シテ此線ハ南潯
線ニ比シ利益大ナルコト勿論ナルヲ以テ橋氏モ同意シ居レ
リ就テハ英國ニ對スル折衝ハ事前ニ行クヘキヤ或ハ先ツ日
支間ニ取極メタル後英國ヨリ抗議ノ起リタル場合其対応策

ヲ施スヘキヤ何レカ此際決定ノ上此問題ヲ解決スル積リナ
リ若シ貴官ヨリ日本政府ノ意向ヲ承知シ得ハ仕合ハセナリ
云々

小官ハ由來此問題ニハ殊更関知シ居ラサル為メ橋ヨリモ何
等聞クコトナシ只以上曹ノ言ノミニテハ或ハ真相ヲ尽ササ
ルヤ計リ難キモ單ニ右ノ事情ノミニテハ線路延長ハ英國ノ
抗議ニ對スル日本ノ決心次第ニテ問題ハ解決シ得ルモノト
判断セラル此問題ニ對スル御意向知リタシ夫レ次第ニテ曹
汝霖ニ内交渉ヲ為シ御希望ヲ充タサシムルコトヲ努ムヘシ

五〇一 九月四日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

南潯鐵道延長線問題ニ関スル船津書記官曹交

通總長會談内容報告ノ件

第一一七七號

南潯鐵道延長線ニ関シテハ其後相變ラズ曹汝霖ノ態度煮切
ラザルヲ以テ去月廿二日船津ヲシテ更ニ督促セシメタル際
曹ハ本件ハ種々困難ナル事情モアリ又議會モ已ニ開カレ居
ルコト故結局議會ノ承認ヲ求ムルコト必要ナル可シト述ベ
タル由ニ付船津ハ議會ノ開カルルコト夙ニ分リ居リタルヲ

以テ議會開會前速ニ決定方申入レタル際別段議會ノ事ニ論

及セズ單ニ福建地方人ノ反對等ヲ云々セラレタルガ今日ニ
至リ始メテ議會討議ヲ云々セラルルハ如何ニモ殊更ニ遷延
ヲ謀ラントセラルルニ非ズヤト疑ハレ極メテ不誠実ナル
仕打ナラズヤト難シ夜中二時間ニ亘リ論難シタル結果曹ノ
反對全ク本件ガ最初葉恭綽トノ間ノミニ商議セラレ契約草
案全部出來上リタル上始メテ曹ニ相談シタルヨリ大ニ不快
ヲ感シ居ルガタメナルコト明トナレリ從ツテ曹ハ已ニ出來
上リ居ル契約ヲ多少變更シ充分自分ノ面目ヲ立テントノ意
嚮アルニヤ兩三日前橋ヲ交通部ニ招キ（橋ハ始メテ曹ニ會
見セリ）福建出身代議士ノ反對有ルニ付福州線ヲ變更シテ
贛州ヘ延長スルコトトシテハ如何又前渡金ハ是非尅千万円
ニ増加セラレタシト述ベタル由ニ付橋ハ贛州ヘ延長スルコ
トハ固ヨリ希望スル所ナルモ英國側トノ關係上実行困難ナ
ラズヤ又前渡増加ハ本社ト相談ノ上返答スベシト答ヘタル
ニ曹モ英國トノ關係如何ハ一応取調ブベシト語り何等要領
ヲ得ズシテ引取リタル由ナルガ右ハ曹ガ本件ヲ遷延セシム
ルタメ好イ加減ナルコトヲ話シタルニ非ズヤトモ察セラレ
タルニ付橋ハ九月三日葉恭綽側ニ付事情ヲ探リタル所橋ノ

推測ハ当ラズト雖モ遠カラズトノコトニテ又本件及ビ其他
ノ關係ニテ葉ト曹トノ關係近來甚ダ面白カラズ葉ハ遂ニ一
昨日辭表ヲ提出シ曹ハ之ヲ許シ其後任トシテ徐世昌ノ末弟
ニシテ津浦鐵路局長タル徐世章ヲ推薦シタル由ナルガ段総
理ハ総理更迭新内閣組織迄ハ引続キ葉ノ留任センコトヲ切
望シタル由ナリ本件今後如何ニ成行クヤ頗ル懸念ニ堪ヘザ
ルモ本使ハ出發前今一度篤ト曹ニ向ツテ嚴談スル所存ナリ

五〇二 九月六日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

南潯鐵道延長線問題ニ関シ曹交通總長ノ真意

ヲ叩キタル件

第一一九六號 （九月九日接受）

往電第一一七七號ニ関シ

九月六日曹汝霖本使來訪ノ際曹ノ真意ヲ叩キタル所贛州延
長ノ件ハ英國トノ關係上日本ニ之レヲ許スコトノ困難ナル
ハ曹モ承知シ居ルモ軍事上及經濟上ノ見地ヨリ此延長ハ福
州線ヨリ遙カニ有利ナルヲ以テ成ルヘク早く此線ヲ布設シ
タシ而シテ英國トノ折衝ハ一切日本政府ヲシテ当ラシメン
トノ意向ナルコト判明シタルモ本使ハ此線路ヲ全然日本ニ

テ引受クルコトハ到底英國ノ承認ヲ得ル見込ナシト思料シタルニ付先ツ英國當局ニ向ヒ南潯ノ窮境ヲ説明シ之レヲ救済スル見地ヨリ南昌贛州間ヲ日英共同出資ニテ布設スルコトヲ提議スルコトトシ福州線ハ是迄話合ヒタル通りニテ決定シ工事ノ着手ハ後廻シトスルコト亦一策ナルヘシト述ヘタルニ曹ハ英國トノ交渉ハ全然日本ニ一任シタシト答ヘ福州線ニ関シテハ福建選出議員ノ反対ヲ云々シテ之レヲ躊躇スル模様アリシニ付本使ハ帰朝ノ後東亞本社トモ篤ト相談ノ上更メテ何分ノ義申出ヘキ旨答ヘ置タリ

五〇三 九月七日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

南潯鐵道延長問題ニ關連シ新旧總統交替及内閣更迭ノ時期等ニ關スル觀察回電方ノ件

第七四七号

南潯鐵道延長問題ニ關シ最後ノ一段ニ至リ曹汝霖カ故障ヲ入レタル為メ殆ント行惱ノ姿トナリ目下政府ニ於テモ之ニ対応スヘキ手段講究中ノ処今回總統ノ改選ニ伴ヒ政府更迭ノ已ムヲ得サルモノアルヤニ考ヘラレ内閣改造ノ結果万一坊間予測ノ如ク葉恭綽交通總長ニ就任ノコトトモナラハ本

件ハ寧ロ今姑ク見送り政局安定ヲ俟テ進行ヲ計ルモ一案カト思考セラルルモ反之内閣ノ更迭カ急ニ運ハレサルモノトスレハ此際至急何等カ適當ノ手段ヲ案出シ其進行ヲ計ラサルヘカラサル次第ナルニ付テハ其含ニテ左ノ三点ニ關スル御觀察至急回電アリ度シ

一、新旧總統ノ實際交替ハ此際直ニ実行セラルルヤ若クハ大總統選舉法ノ規定ニ從ヒ来十月十日ヲ以テ交替スル次第ナリヤ

二、新旧總統交替ニ伴ヒ内閣交迭スルモノト思考セラルル処段居据リトナルカ如キ形勢ナキヤ又内閣更迭スレハ新總理、財政、交通、外交、農商各總長ハ何人ノ選任ヲ見ルニ至ルヘキ模様ナリヤ

三、新旧總統交替カ十月十日ヲ以テ行ハルトセハ内閣交迭ハ自然夫迄延期サルヘキ模様ナリヤ或ハ右ニ拘ラス總統選舉ヲ一段落トシテ此際内閣交迭ヲ見ルカ如キ形勢ナリヤ

五〇四 九月七日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

南潯鐵道延長線ニ關シ曹汝霖内話ノ件

坂特電第七十二号

置ケハ可ナリト信ス

五〇五 九月二十五日 在九江瀨上領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛

南潯鐵路公司及台灣銀行間短期借款契約締結ノ件

附屬書 右契約書寫

機密往信第二四号

(十月五日接受)

大正七年九月二十五日

在九江

領事代理副領事 瀨上恕治(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

南潯鐵路公司ニ於テハ旧曆中秋節ニ際シ諸仕私ノ為メ必要ニ迫ラレ其資金ヲ当地台灣銀行ヨリ借用スルコトナリ九月十八日台灣銀行ト南潯鐵路公司トノ間ニ別紙寫ノ如キ短期借款契約締結セラレ本官之ニ見証ヲ与ヘ置候今回成立ノ借款契約要綱左ノ如シ

一、金額 日本金貨拾參万円
二、期限 六個月

三、利息 月八分

四、担保 九江竜開河所在公司所有土地

五、抵当品並償還方法 公司營業科総収入ヲ抵当トシ營業收入中ヨリ毎日銀參百兩宛台灣銀行ニ預入レ償還資金ニ充ツ

右及報告候 敬具

写送付先 在支公使

(欄外註記)

「白岩氏ニ確メタルニ東亜ト打合ノ上ナリトノコトナリ」

(附屬書)

台灣銀行及南潯鐵路公司間短期借款契約書写

合同

立借款合同 九江台灣銀行 今因南潯鐵路公司為旧歴中秋節閑需款応用今向

九江台灣銀行借到日幣拾參萬元当日議定各件開列於后

一南潯鐵路公司借到日幣拾參萬元由台灣銀行照申市扣銀照付

一此次借款期限以六箇月還清

一南潯鐵路公司營業科総収入為抵押品自借款之日起該營業

潯陽道尹 傅 春 官

中華民國七年九月十八日

五〇六

九月二十八日 荒井東亜興業会社社長ヨリ
小幡政務局長宛

日英華合同ニ依ル南贛線開弁ニ關スル程允等

ノ活動ニ付橋ノ報告提出ノ件

附屬書一 九月二十日附在北京橋三郎ヨリ東亜興業会社宛書信写

程允許計画南贛線ニ關スル件

二 九月二十一日附在北京橋三郎ヨリ東亜興業会社宛書信写

程菊圃計畫ニ關スル件

拝啓南贛線問題ニ關シ別紙写ノ通り北京橋三郎ヨリ来狀ニ接シ候ニ付不取敢供貴覽候 敬具

大正七年九月廿八日

東亜興業株式会社

社長 荒井賢太郎(印)

外務省政務局長 小幡西吉殿

(附屬書一)

写

總収入須毎日送存台灣銀行銀參百兩不得拖延
一利息按月捌厘

一以竜開河九江車站附近地皮式百柒拾陸畝伍分叁厘又捌畝參分式厘又參拾柒畝伍分共參百貳拾貳畝參分參厘為担保品

一期滿之日倘南潯鐵路公司營業科総収入毎日所還来之款若或有不足之處台灣銀行即將担保品變價償還若或再不足其数台灣銀行即向担保人追償不得推諉

一到期之日南潯鐵路公司所還来之款由台灣銀行照市作価南潯鐵路公司不得他家交易台灣銀行亦不得高抬市価

一当立合同一樣參紙南潯鐵路公司收執老幣駐潯日領事收執老幣台灣銀行收執老幣為拠

貸主九江台灣銀行支配人

松 尾 文 雄(印)

借主南潯鐵路公司

總理 李 盛 鐸

坐弁 張 毅

担保人

贛北鎮守使 吳 金 彪

東亜興業重役席御中 九月廿日

北京 橋 三郎

拝啓 程允許計画南贛線ノ件

程允ガ其後上海天津北京トカケ廻リタル結果星記洋行ト云フ從前南贛線ノ權利ヲ得居リタル英商ト段々ノ談ヲ進メ当分日本ノ資金ヲ以テ英支日三方合同ニテ此線ヲ開弁シ將來歐洲戰平定後英國ノ希望ニ由リ全然英國資本ニ切り替ヘルト云フ条件ツキニテ已ニ英國公使側モ承諾ヲ得タル故日本ノ方モ談ニ乗ルカトノ事本日持込来リ候事実如何ノモノカ商弁会社トシテ成立サセル考ノ由交通部ノ方ノ意向モ未タ確メ居ラストノ事ニ候兎モ角資金ノ額条件及工事及材料ノ始末監督方法等巨細ノ事相分リ候上ハ東亜ト交渉シ英人側ニモ面議差支ナシト返事致置キ候程モ中々熱心ニ奔走致居候御含ヲキ被下度候

(欄外註記)

「下記英商ハ広東南昌線及広東潮州府線ニ付權利ヲ有スル「ピアソン」商会ノコトニアラズヤト思考セラル」

(附屬書二)

写

東亜興業重役席御中 九月廿一日

北京 橋 三郎

程菊圃計畫報告

本日程菊圃氏來訪左ノ提案^(註)ニツキ中英公司(怡和洋行代理)ト協議中ニテ先方モ大約承諾済トナリ兎モ角東亞ノ代表者ト会见致度旨ニツキ一度面会シ吳レヨトノ事申込有之候

然ルニ此面会ハホンノ個人的ニ会见スルハ別段ノ事モ無之候得共目下曹汝霖ノ提議ニテ林公使ヨリ公然英國トノ協議ヲ開クト云フ際且ツハ葉恭綽ノ方テハ十一月ニハ南潯ノ国有ヲ決メルト同時ニ福州線延長借款ヲ取り極メルト申居ル折柄程等商人側ヨリ勝手ニ英商ト妥協シテ此問題ヲ持起ス事ハ如何ノモノカ殊ニ個人ノ資格トハ云ヘ拙者ガ程等ノ求メニ応シ英國側ト会见セシ事曹葉兩氏ノ耳ニ入ル時ハ又何ナル誤解ヲ生スルヤモ難計ニツキ程氏ニ対シテハ先ツ公使ト御相談ノ上一応東亞ノ意見ヲ聞キタル上ニ会见スル事ニシタント返事致オキ候兎モ角拙者ハ本日公使館ニ参リ芳沢船津兩氏ノ意見ヲ求メ其上或ハ公使ノ方ヨリ本省ヘ電信ヲ願フカ又当方ヨリ電信ニテ照会スルコトニナルヤモ難計候

此程菊圃ノ運動ノ経過ニ見テ南潯ハ勿論其他ノ線モ英國側テハ日本ノ出様ニ由リテハ合同作業ノ事ハ別段困難ノ交渉ニアラストノ感念ヲ引起候南潯浙江英國ト共同シテ敷設スル事出来レハ支那ノ為メ又東亞即チ日本ノ為メ非常ノ利益ト存候御一考被下度候

右報告マテ

註 「左ノ提案」ニ付テハ次掲五〇七文書附屬書參看

五〇七 十月一日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

南潯線ニ関スル程菊圃ノ計畫案写送付ノ件

附屬書

程菊圃ヨリ橋三郎ニ提出ノ南潯線計畫要綱
写

機密第三八二号

(十月七日接受)

大正七年十月一日

在支那

臨時代理公使 芳沢謙吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

南潯延長線問題ニ関スル件

本件ニ就テハ迭次及具報置候通ニシテ曹交通總長カ福州線

ヲ躊躇シ寧ロ贛州線ニ變更セムコトヲ提議シ而シテ右ニ関スル英國側トノ折衝ハ一切日本側ニ於テ引受ケラレ度旨ノ意嚮ヲ漏シタルニ付兎ニ角林公使帰朝ノ上東亞興業会社トモ篤ト協議ノ上更ニ何分ノ儀申出ツヘキ旨ヲ約シ置カレタル次第ハ往電第一一九六号ヲ以テ同公使ヨリ電報相成候通ニ有之候処其後当初ヨリ南昌贛州間鐵道布設権獲得ノ為運動中ナリシ江西側代表者程菊圃ヨリ東亞代表橋ニ対シ別紙写ノ如キ計畫要綱ヲ提出シ日本側ニテモ右ニ異存無キニ於テハ一応中英公司(British and Chinese Corporation)

代表者トモ会见セラレ度旨申出タル趣ヲ以テ右ニ関シ何分ノ指揮ヲ得度旨橋ヨリ申出ノ次第有之候処前記程ノ提案ニ拠レハ贛州線ノ敷設ハ表面支那人ノ經營トシ中央政府ニ対スル一切ノ接洽モ日英兩國側保証ノ下ニ専ラ支那商人ニ於テ之ニ当ルヘク且之カ所要資金ハ英商ノ保証ノ下ニ日本ヨリ借款シ諸種材料ノ供給及総技師長ノ採用ハ之ヲ債權者側ニ仰クコト等ハ其重ナル条件ニ有之大体ニ於テ差シタル不都合ノ点モ無之哉ニ被認候得共何分前陳ノ通本件ニ関スル我方解決案ニ就テハ林公使ニ於テ東亞本社トモ熟議ノ上決定セラルヘキコトニ相成居旁々右決定ヲ俟タスシテ当地ニ

於テ直接具體的協議ノ歩ヲ進ムルコト面白カラスト思考致候ニ付橋ニ対シテハ該計畫案ハ主義ニ於テ別段ノ異議無カルベク随テ前記程菊圃カ三者ノ間ニ立チ予備的內議ヲ試ミルニ対シテハ何等關涉ノ必要無カルヘキモ橋カ直接英國側代表者ト開談スルカ如キコトハ姑ク差控ユル方可然旨申達致置候間右様御含ノ上別紙程提案東亞本社ヘモ御転示相成可然考量方御伝達相成度此段申進候也

(附屬書)

写

程菊圃ヨリ橋三郎ニ提出ノ南潯線計畫要綱

程菊圃君与中英公司提議条件

- 一、南昌至贛州路線由華商向中国政府承弁
- 一、由華商暫借日款由英商在場作証将来或中国有款自還或英國有款先行代還由英商認定數目期限
- 一、此路營業由華商自管其建築之事三国商人会商弁理
- 一、南潯公司所欠外債及未完工程由南潯公司代為清理
- 一、中国政府由華商自行接洽由英日兩商為之証実
- 一、採弁材料原議由債權者經手
- 一、工程原議由債權者包弁

六 南潯鐵道ニ関スル件 五〇七

一、総工程師原議聘用日人

會議之人江西發企人程菊圃

中英銀公司梅爾司

介紹人 ジョーン

九月二十一日

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

程菊圃氏ヨリ中英公司ニ対スル

提議条件

一、南昌ヨリ贛州ニ至ル鐵道線路ハ支那商ニテ中国政府ノ
受負ヲナスコト

一、支那商ハ一時日本ヨリ借款シ英商立会ニテ之ヲ保証シ
将来中国自ラ返金スルカ或ハ英商ノ資金ニテ先ツ代テ返
済スヘク英商ヨリ其金額期限ヲ認定スルコト

一、此鐵道營業ハ支那商自ラ之ヲ管理シ建築工事ハ三国ノ
商人會議シテ之ヲ処理スルコト

一、南潯公司ノ未払外債及未完工事ハ南贛公司ニテ代テ之
ヲ処置スルコト

一、中国政府ヘハ支那商自ラ打合セラナシ日英兩國商人ハ
之ヲ確証スルコト

英兩分シテ各其一分ヲ出資スルノ取極ト為スコト之ナリ

(小幡政務局長)

五〇八 十二月二十日 内田外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛

南潯鐵道延長線借款契約成立ニ尽力方東亜興

業ヨリ依頼越ニ付通報ノ件

附屬書

十一月九日附荒井東亜興業社長ヨリ内田

外務大臣宛依頼書写

右尽力方切望ノ件

政機密送第一八五号

南潯鐵道延長線ニ関スル件

本件ニ関シ今般東亜興業会社ヨリ別紙写ノ通り申出候ニ付
及御送付候間御含置相成度此段申進候也

(附屬書)

十一月九日附荒井東亜興業会社社長ヨリ内田外務大臣宛依

頼書写

南潯延長線ニ関シ

南潯延長線トシテ南昌福州間鐵道借款契約ハ本年七月中条
件全部協定済トナリ將ニ調印セントスルニ際シテ支那側業
恭綽曹汝霖兩人ノ確執ニ由リ延期トナリ(曹汝霖ノ背後ニ

六 南潯鐵道ニ関スル件 五〇八

五〇〇

一、材料購入方ハ債權者ニテ取扱フコト

一、工事ハ債權者ヨリ受負フコト

一、技師長ハ日本人ヲ聘スルコト

會議者 江西發起人 程 菊 圃

中英銀公司 メーヤース

紹介人 ジョーン

九月二十一日

(附 箋)

本件解決案意見

第一案、葉交通次長ハ来十一月ニハ必ス南福線ヲ成立セシ
ムヘシト言明シ居リタル關係アルニ付此際更ニ同人ニ責
任ヲ負担セシムル見地ヨリ曹汝霖ノ南贛線ニ関スル意見
並ニ程菊圃ノ案ヲ全然打明ケ葉ニ相談ノ上我態度ヲ決ス
ルヲ一案トス(葉次長辭職后ニ付本案実行面白カラス)

第二案ハ此際程案ヲ是認シ左ノ二点ノ修正ヲ為スニ在リ

第一点ハ南潯線ヲ本件關係ノ外ニ措キ南潯線ハ其假交通
部ノ借款ニ切り換ヘノ交渉ヲ為スコトナリ

第二点ハ南贛線ハ日支英三国ノ諒解ノ下ニ不取敢日本資
本ヲ以テ之ヲ建設シ他日英國ノ希望ニ応シ本借款金ヲ日

尚他ノ因縁アリタルハ勿論ナリ) 今日ニ至リタル次第ハ總
テ御熟知ノ通りニ有之梁士詒業恭綽ハ殆ント本件ノ成立ニ
対シ絶對的責任ヲ有スル成行ニテ本年十一月中ニハ必ス成
立セシムヘキ旨梁士詒ハ船津公使館書記官ニ対シ業恭綽ハ
弊社代表者橋三郎ニ対シ何レモ言明シタルノミナラズ江西
南潯鐵道側ノ代表者等ニ対シテモ来ル十二月東亜ニ支払フ
ヘキ利息ノ事ハ心配ニ及バズ其以前ニ南潯國有、延長線借
款トモ解決成立スベシトノ責任アル言明ニモ顧ミ支那政情
ニシテ大体彼等ノ予期ニ違ハザルトキハ

新公使御着任ノ上ハ

第一着ニ本件ノ成立ヲ促進セシメラルル様御尽力切望仕候
万一支那政情ノ変化ニ由リ南福線ノ成立此上延引相成ルニ
於テハ英國トノ關係アル南贛線ヲ先ツ成立セシムルモ亦不
得已ル儀トハ相考候得共九江ヲ基点トシ海岸ニ達スル鐵道
布設ハ我政府既定ノ國策トシテ明治三十年以來何レノ内閣
ニ於テモ之ヲ支持繼承シ来ラレ候重要ナル意義アル線路ト
窃カニ承知致居候次第ニ有之此上在再平和後ノ國際政局ニ
入ルトキハ再ヒ機會ヲ失スルノ虞レモ有之候様愚存致候間
他ノ凡テノ借款御中止ノ場合ニ於テモ本件ニ限り特別ノ御

五〇一

考慮ヲ以テ成立ヲ促進セシメラレンコトヲ偏ニ奉悃願候

敬具

大正七年十一月九日

東亞興業株式会社

社長 荒井賢太郎（印）

外務大臣子爵 内田康哉閣下

事項七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件

（四平街鄭家屯鐵道借款）

五〇九 一月十五日

在鄭家屯岩村副領事ヨリ
本野外務大臣宛

四鄭鐵道仮營業開始ニ付報告ノ件

送第一七号

（一月二十一日接受）

大正七年一月十五日

在鄭家屯副領事 岩村成允（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

四鄭鐵道營業開始ニ関スル件

四鄭鐵道建築列車運轉開始ニ関シテハ客年十二月二十日付
送第一六六号ヲ以テ及報告置候処今般仮營業開始候ニ付右
ニ関スル調査別紙正副二通及提出候間御査閲相成度此段及
報告候
敬具

（別紙）

四鄭鐵道仮營業開始

四鄭鐵道ハ引続キ諸般ノ工事ヲ取急キツツアリシカ各停車

七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 五〇九

場其他ノ設備略々整ヒタルヲ以テ一月十一日より仮營業ヲ
開始シ旅客貨物ノ輸送ヲ為セリ從來ノ建築列車ハ鐵路局工
務科ニ於テ便乗事務ヲ取扱ヒタルモ今回ハ運輸科ノ管掌ニ
移シ大体滿鉄ノ制度ヲ標準トシテ賃率及諸規程ヲ定メタル
由ナルカ開業早々ノ為メ設備其他ノ点ニ於テ遺憾ノ点無キ
ニ非サルモ漸次工事ヲ完成シ数月ノ後更ニ本營業ニ移ルヘ
シト云フ尚仮營業開始後ノ列車ハ滿鉄四平街駅ヲ基点トシ
一日二回往復運轉スルモノニシテ午前六時二十分發ノモノ
ハ混合列車ニテ一、二、三等客車及貨車ヲ連結シ發着時刻
ヲ正確ニシ旅客ノ便ヲ主トスル管ナルモ午前十時三十分發
建築列車ハ客車及材料車ニシテ着發時刻ノ如キハ当分正確
ヲ期シ難キ由ナリ

右仮營業開始後ノ四鄭鐵道發着時間表及旅客貨物賃金表左
ノ如シ

註 右時間表及賃金表省略